第４回

中野区立中学校教科用図書選定調査委員会

日　　時：令和６年７月１日（月）午後１時３０分～

場　　所：中野区役所７階　教育委員会室

午後１時３０分開会

○事務局　皆さん、こんにちは。お忙しい中、会議にご出席いただきまして、ありがとうございます。

定刻となりましたので、これより第４回中野区立中学校教科用図書選定調査委員会を始めさせていただきます。

最初に、「事務局連絡」についてですが、本日は最後の選定調査委員会となります。改めて会議の最後にお伝えをさせていただきますが、配付資料等の回収をさせていただければと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

次に、本日の資料を確認させていただきます。

１点目は調査研究報告書となります。

２点目は６月２４日時点の学校意見となります。

３点目は保護者・区民意見の一覧、こちらも６月２４日時点のものに更新したものとなっております。こちらについても会議が終わりましたら回収をさせていただきますが、本日の協議の参考にしていただければと思います。

それでは、次第に従いまして、「教科書に対する意見について」、進めさせていただきたいと思います。

委員長、どうぞよろしくお願いいたします。

○委員長　承知しました。

それでは、皆様、今日で終了になりますけど、どうぞよろしくお願いいたします。

本日は国語、国語（書写）、数学、理科、外国語（英語）ということで、順にいつものように協議をお願いしたいと存じます。

それでは、早速ですが、資料を読み込んでいただく時間を１０分取ります。１０分がたったら合図を申し上げますので、よろしくお願いいたします。

〔資料読み込み〕

○委員長　皆さん、よろしいでしょうか。そろそろ時間になりますので、それでは、国語から順に皆様のご意見を発表いただければと思います。毎回そうでしたけども、お一人２分程度でまとめていただければ大変ありがたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、○○副委員長のほうから国語についてご意見をお願いいたします。

○副委員長　直接中学校とは関係ないですけど、私が危惧しているのは、前回の高校の学

習指導要領が改訂されたときに、「文学国語」というものが選択の教科に移ってしまった。だから、取り方によっては、高校の段階で文学がすごく浅い扱いになってしまうということを危惧しています。だとしたら、小学校、中学校の義務教育の段階でしっかりとした文学作品に触れておくべきだなという観点で、まず見てみました。

そうすると、光村図書出版は、古典的な「少年の日の思い出」とか、「走れメロス」とか、「高瀬舟」、あと、詩の「初恋」と、私たちが中学校で学んだようなものがしっかり残っている。それとともに、伊坂幸太郎さんとか、瀬尾まいこさんとか、さくらももこさんと、今の若い人に人気のある方をバランスよく配置しているかなというふうに思いました。

あと、三省堂の「空中ブランコ乗りのキキ」という１年生にすごくいい作品があるのですけど、これは中学校１年生の文学の入門にすごく適していて、これはすごくいいなというふうに思っています。

あと、光村図書のよかった点は、「語彙ブック」です。今、子どもたちの語彙が貧困であるという中で、「語彙ブック」を各学年に散りばめながら、語彙力を高めるのに役立つというところがいいかなと思っています。

あと、東京書籍では、朝井リョウさんとか、原田マハさんとか、小川洋子さんの新しいものを取り込んで、これも子どもの心を引くかなという感じで読みました。

以上です。

○委員長　○○委員、お願いいたします。

○委員　東京書籍です。本文の割合が広く取られて、見やすく、教科書の使い方としても使いやすそうである。マークで他教科との関連性をしっかりと分かるようにしているものは、他教科との関連としても非常に使いやすいかなというふうに感じました。漢字をまとめた「漢字道場」であるとか、「中学生にお薦め本」、それから、資料として、原稿用紙の使い方であるとか、推敲の観点などの資料は使いやすいというふうに感じました。

三省堂です。「漢字のしくみ」などは生徒の関心力をさらに高めそうであると思いました。資料編としての「読書の広場」は、教科としての国語と社会生活を関連づけるいいものかなと。統一も取れて、使いやすく、色のつけ方も非常に落ち着いていて、見やすかったというふうに思いました。

光村図書です。「語彙ブック」はやはり特徴的だなというふうに思いましたが、サイズを変えているのは何か意図があるのかなというふうに思います。それから、国語の教科書の中でも折り込みのページを使っていますが、これの効果というものが実際はどうなのか、

授業の中でこの折り込みを開いて使わせていくことがどの程度あるのかなというふうに感じました。

教育出版です。「学びナビ」は非常に使いやすいのではないかというふうに思いました。ページのレイアウトであるとか、挿絵の大きさ、文字の大きさは学年ごとに差をつけていますが、中学校１年生は、中学生としてこんなに文字を大きくしたりする必要があるのかなというふうなことも感じました。

以上です。

○委員長　ありがとうございます。

○○委員、お願いいたします。

○委員　国語はやはり読み物だと思うんですね。作品の選び方だと思うんです。クラシカルなものを鑑賞させたいと思うので、そういった点から見ると、光村図書がいいように思いました。

以上です。

○委員長　○○副委員長、お願いします。

○副委員長　今回もまた、子どもたちにとっての分かりやすさという視点で見させていただきました。

東京書籍ですけれども、興味深いのは、「未来への扉」、「未来を考えるための９つのテーマ」みたいなところに国語を結びつけていくところは非常に面白いなというふうに思いました。また、キャラクターを使って、子どもたちが親しみやすくしている工夫なども感じられました。２次元コードについては、多く掲載されていて、それぞれに見出しがついているなと思いました。漢字の練習、古典の音読なども２次元コードから聞くことができます。

三省堂ですけれども、こちらは、「学びへの扉」というところで学習の進め方が明示されているのは、見通しの利く学習への取組としてはいいなと思いました。こちらも、キャラクターがポイントを示しているような工夫が。それから、２次元コードから「まなびリンク」につながるようなスタイル、これもなかなか興味深いなと思いました。

光村図書です。こちらは、図や表やグラフなどの資料が非常に分かりやすいなというところ。それから、「学びへの扉」としての学習の流れ、また、「学びのカギ」として、どのように学ぶのかというところを明確に示しているなというふうに感じました。「語彙ブック」というものが補助教材としてついておりまして、使用教材との関連づけがよかったか

なと思います。挿絵、図、写真等の色合いも落ち着いていて、本文は非常に読みやすいなというような印象を持ちました。

以上です。

○委員長　○○委員、お願いします。

○委員　どの発行者も、まず、学習の進め方については、やっぱり、系統立てて、それぞれの方法でやっているなというふうに思いました。

その中で、東京書籍は、やはり、巻末に思考のヒントを掲載したり、それから、「未来への扉」というところで、現代的なテーマとか、そういうものについても考えることができるような工夫がされているなというふうに思いました。

三省堂については、何を学んだかが分かるような形で、特に、領域別の教材一覧というものが最初のところに書いてあるのですけど、これは、逆に、指導をする立場にとっては計画を立てやすいような内容かなというふうに思いました。それから、中身的には、三省堂は、「調査研究一覧」には「挿絵や図、グラフ、写真等の色が鮮やかすぎて」と書いてあったのですが、私はむしろ、絵の入れ方がとても斬新で、ちょっと目を引くなと。特に、古典の挿絵なんかはきれいだなというふうに思いました。

一方で、教育出版のほうは、挿絵ということでは、四角、四角、四角という枠で囲ってあって、オーソドックスなタイプなのかなというふうに思いました。

それから、光村図書に関しては、学習の進め方の中で、「学びへの扉」というページが国語では横書きになっているんですね。国語の教科書としては横書きになっていて、そのページだけがちょっと目を引くようなイメージだったのですが、それがかえって、このページではこういうことが書いてあるのだという意識づけになって、いいかなというふうに思いました。また、語彙力を増やすようなページ、そういうところは充実しているなというふうに思いました。

以上です。

○委員長　○○委員、お願いします。

○委員　どの教科書もいろんな本を紹介していることが私の中では面白くて、国語の教科書というのはこんなにたくさんの本を紹介しているのだなということがすごくよく分かったなと思いました。

東京書籍の、押さえなければいけない、表みたいになっていて、このものはこれが大事ですみたいな表があって、同じことが教育出版にもあったのですけど、これをどうやって

子どもたちが理解して活用していくのだろうかということは、どういうふうに説明するかということは難しいだろうなと思いながらも、こんな力をつけてほしいのだという教科書の意図は伝わるというふうに思いました。あと、「未来への扉」の「未来を考えるための９つのテーマ」というのは、なるほどというようなところがありました。

あと、三省堂については、きれいだなという印象が自分の中にもありました。こんなふうにきれいにというふうな感じがしました。

教育出版も同じように、押さえなければいけない表みたいなものがあったのですけど、教育出版は厚いかなとちょっと思って、厚さが一番厚かったように思って、国語の教科書は厚くなってしまうのだろうなと思うんですが、持ち歩きとか、そんなことを考えると、どうなんだろうかというふうにちょっと思ってしまいました。

光村図書は、「学びへの扉」の構成がちょっと面白いなというふうに思ったことと、あと、「語彙ブック」とかはこういう感じでやっていくのだなというふうなところで、面白そうだなと思いました。

以上です。

○委員長　○○委員、お願いします。

○委員　今、○○委員からもあったとおりなんですが、国語は教科書会社によって扱っているものがすごくいろいろ違うのだなというところで、面白いなと思いました。生徒が興味、関心を持って学べる、そして、主体的に学習に取り組む態度が育まれるような教科書とはどういうものかというふうな感じの視点で見ていったのですが、まず、東京書籍は、見通しを持ってというか、その単元を学ぶに当たって身につけるべき力とか、そういうことがしっかり書いてあるというふうな形で、見通しを持って進めることができるような教科書だなと思いました。

また、三省堂に関しては、こちらは私もきれいだなとかというふうに思って、それと、あと、中身に関しては、最近の歌手の歌詞の言葉みたいなものも入っていて、例えば、１年生で緑黄色社会とか、２年生でＯｆｆｉｃｉａｌ髭男ｄｉｓｍとか、３年生でＹＯＡＳＯＢＩとか、そういうものが入っているところで、子どもたちの興味、関心というものはとても引かれるものもあるなというふうに思いました。面白いような内容だったなと思います。

教育出版と光村図書は、やはり王道だなというふうな感じもして、ただ、王道だからこそなのか、王道だけどなのかは分からないですけど、ちょっと重いというか、厚いという

か、重いイメージを持ちました。特に、光村図書は王道のものが入っていて、すごく見やすいし、いいなとも思ったのですけども、何となく見た感じでは重いなというイメージがあったのと、教育出版に関しても、ちょっと厚いなというイメージはあったのですが、巻頭の加藤周一さんの言葉が入っていたりとか、そのようなところで、生徒の興味、関心を引くようなところにもなっているのかなというふうなことも思いました。

以上です。

○委員長　○○委員、お願いします。

○委員　国語は、やはり読み物教材が全てかなと、現代文はそういうふうに思いました。古典に関しては、各発行者の違いはそんなにないなと。ただ、教育出版だけはちょっと難しいかなというところがあったぐらいで、それ以外は同じぐらいかなというふうに思いました。読み物は、我々も中学校時代に学んだなというものであったりとか、古きを知って、新しいものを取り入れていくということを意識しているなという教科書会社もあったりして、読み物ががらっと変わると、授業者の教え方が全く変わりますので、そこで、学習指導要領における国語の「読む」、「書く」をメインに教えるということができるというふうには、どの教科書にも思いました。２次元コードが活用されているなというのは、現行の教科書でもあるのですけども、何の２次元コードなのかということが見て分かるのは３者でした。教育出版だけはそこがちょっと分かりづらいなというところでした。

以上です。

○委員長　○○委員、お願いします。

○委員　東京書籍なんですが、先生方の皆様がおっしゃっているように、「未来への扉」というところで未来を考える、穀物のテーマを示しているのは分かりやすいかなというふうに思いました。あと、学習テーマの「書くこと」、「話すこと」、「学びを考える」、「読むこと」の色分けが鮮やかなので、分かりやすいというところで、いいかなというふうに思いました。

あと、三省堂ですが、「語彙を豊かに」というところで、関連づけるものが分かりやすいかなというふうに思いました。

教育出版のほうは、文法の説明のところで、囲みと矢印で、目で見てすぐに確認しやすいというところが子どもたちは分かりやすいかなというふうに思いました。

光村図書のほうは、「学習の見通し」のところでＳＤＧｓの関連が記入されているのが分かりやすいというふうに思いました。あと、「語彙ブック」があるというところは、私

も同じで、いいと思います。

以上です。

○委員長　○○委員、お願いします。

○委員　日々日本語にあふれている中で、国語とは何だったかというところに立ち返って、ちょっと読ませていただきました。どこも、紙面の見やすさであったり、学習の流れを分かりやすくであったりという配慮を感じました。

東京書籍さんは、デジタルが充実していて、辞書の引き方なんかもあって、イントネーションとか、こちらは使いやすそうだなと思いました。最初のほうに魚住りえさんのインタビューというか、文章が載っていたかと思うんですが、こちらは、読むこと、人前で話すことについての困り事であったり、思い当たることがたくさんあって、大変参考になりました。なるほど、こういうことをやっていけばいいのだなということが分かりやすかったです。

三省堂さんは、こちらもデジタルが充実していて、漢字ドリルとワークシートとかはちょっと面白そうだなと思っていたのですが、最初のほうの物語で、「竜」だったかな。1年生の初めのほうで、ストーリーとしてちょっと長めだなと感じたのですが、朗読が前提なのかなと思ったのですが、朗読が前提ということもちょっと危ないかなと思っていて、私は小学校や幼稚園で読み聞かせのボランティアなんかもしていたのですが、朗読と読み聞かせはちょっと違っていて、子どもたちが自分で感じることというものをすごく大事にしているところがあって、それとは別に、朗読は、ここを聞かせたい、このニュアンスを伝えたいということが載ってしまうことがあるので、それが前提になるとちょっと怖いかなと。もっと子どもたち自身が真っ白な、素の文章だけを読んで感じることを大事にしたほうがいいのではないかと思いました。

教育出版さんは、言葉とは、日本語とは、物語とはを知るための、題材における目当てや具体的な振り返りがあって、やりたいことは分かるのですけれども、やっぱり、1年生の初めのほうではちょっと難しいかなと感じました。

光村図書さんは、資料が目的別で分かりやすかったです。「語彙ブック」はよかったです。個人的には空の詩がとてもよかったと思います。

以上です。

○委員長　○○委員、お願いします。

○委員　東京書籍さんは、「てびき」に学び方や学習の進め方が記載されているため、見

通しがとても持ちやすいと思いました。コンテンツの中に筆者の言葉が動画として入っていて、とても興味深く見ることができました。

三省堂さんは、まず、色がきれいでした。あとは、単元に基づいた「私の本棚」ということで、いろいろな本を紹介しており、中学生が興味を持ちそうな感じがとてもよかったと思います。あと、物語の「読み方を学ぼう」というところで、読むこと自体の方法をいろいろ教えていて、とても興味深かったです。あと、「デジタル漢字ドリル」は、「読む」にも「書く」にもモードを切り換えることができたので、学びやすいなと思いました。

教育出版さんは、単元の前に「学びナビ」ページがあり、学習の目標が分かりやすくて、いいと思いました。「走れメロス」が全てに載っていたのですけど、教育出版さんだけは改行が独特なところでされていて、ちょっと読みづらかったです。

光村図書さんは、文字が大きく、見やすかったですが、ちょっと大き過ぎるかもしれません。読み物として面白かったのは「星の王子さま」は２人の方が翻訳をされていて、全然内容が違うようになっていて、読む本によってこんなに違うのだなということが分かって、とても面白かったです。

以上です。

○委員長　○○委員、お願いします。

○委員　この４者では、やっぱり光村図書が１番いいなというか。何でいいかというと、中学校の勉強で終わらないで、これから先へ広がっていく感じがして、例えば、本をただ紹介するのではなくて、「情報収集の達人になろう」とかいうタイトルがついて、それで図書館に行って、こんな本を借りてみましょうみたいな。そこがまさに国語を学ぶ意義ではないかと思うので。それ以外にも、例えば光村図書のいいところは、小説を読みましょうというところも、ただ作品があって、読みましょう、どう思いましたかではなくて、例えば伏線とか、伏線の回収とか、そういうことがちゃんと書いてある。というのは、小説を書く人もそういうことを考えながら書いているので、そういうこともよく分かって、いいのではないかと思います。あと、先ほどおっしゃった方がおられましたが、外国文学に関するものも非常につながっていて、外国文学というものもあるんだ、翻訳というものもあるんだという話があって、翻訳だけではなくて、例えば、外国のものが書いてあるということは非常に意義があると。近江雄二郎とかが載っていたんですね。日本語で書かれている中国語話者の方のもので、これは翻訳がすごく優れていて、１か所だけ白文で日本語がついていないところがあって、非常にいいなと思って、調べてしまいましたけど。そん

な感じで、非常に細かいところもいろいろ仕掛けがしてあって、古典がいろいろ載っている。古典というか、我々が中学生の頃に習った作品が一応収められているということだけではなくて、一々細かいところがすごく行き届いていて、いいなと思いました。

それに引き換え、標準的だったのは、ちょっと言い方が悪いですが、標準的でつまらなかったのは東京書籍で、東京書籍は、文章の素材は結構面白い人を集めていて、田中真知さんとか、猫の研究者とか、「この世界の片隅に」とか、いろいろ集めていて、いいのですが、説明がその作品にとどまっていて、汎用性がない。そこから広がっていかないような感じになっていて、教えやすいのかもしれないですけど、あまり面白くないのではないかという感じはしました。

三省堂です。挿絵をいいとおっしゃっている方がいたのですが、例えば、「竹取物語絵巻」から取ってきた挿絵が入っているのですけど、国語の授業なんですから、絵師さんが描いた部分というのは、国語でまさに学ぶ部分なので、そこを重視してやってしまっているのは、答えを見せて覚えさせるみたいな感じになっていて、あまりよくないのではないかと思いました。

あと、教育出版さんは、さっきちょっと言ってしまったのですが、津軽弁の詩とか、照屋林賢さんの詩とか、そういうものが。照屋林賢さんの翻訳なしの琉球語のものが載っていて、これはすごいという感じがしましたが、それ以外は、写真もあまりよくないし、駄目かなという感じがちょっとしました。

以上です。

○委員長　ありがとうございます。

○○委員、いかがでしょうか。

○委員　国語が４者だけというのはちょっとがっかりだなということが最初の印象です。数学は７者あって、英語も６者あるんですよね。それと比べても、４者だけというのはどうかなという。

私も、小説というか、文学的教材はどうなっているのだろうかということを中心に読んだのですが、４者とも共通しているのは、例えば１年生であったら、「少年の日の思い出」は全部に載っていると。２年生であったら、「走れメロス」が全部に載っていると。３年生であったら、「故郷」が、しかも、竹内好訳、同じ人の訳で全部に載っているという、そんなところで、あと、２者以上のものも結構あるんですよね。芥川龍之介の「トロッコ」が２者にあったりとか、「坊っちゃん」を３者で取り上げているとか、森鴎外の「最後の

一句」も２者にあったかな。井上ひさしの「握手」も２者にあったりということで、そういう定評のあるもので、子どもたちの興味、関心も引き、発展的なものも含めて、授業をしやすいという点では、そういうものを各発行者がそれぞれで取り入れているのだろうという中で、文学的教材というのは難しいと思うんですけど、ページ数の制限もあって、その中で一まとまりにしなければならなくてという中で、工夫しているなというものは、例えば光村図書であったら、米倉斉加年さんの「おとなになれなかった弟たちに…」というものを入れていたりとか、教育出版だと、「ベンチ」というリヒターの小説や、宮沢賢治の「オツベルと象」を入れたりとかいうことで、どういうものを入れ込んで工夫をして、文学教材というものについて学習させようとしているかというところで見ていくと、１つの方向が出てくるかなというふうに思いました。

以上です。

○委員長　ありがとうございます。

○○委員、お願いします。

○委員　今、委員が言われたけども、４者はちょっと少ないかなと。国語が１番規制がある程度できたりすると、この４者になるのかなと思いました。彼らはやはり、読んで、写真とか、そういった視覚に照らし合わせて学習をするので、何度か委員でご発言がありましたけど、鮮明過ぎて、本文より写真が目立ってしまうということで、どうだろうかということを聞きながら拝見しました。東京書籍、あるいは三省堂には、共通してその部分が言えるのではないかと思いました。教育出版については、縦書きなんだけども、横書きが入っているということで、ここは縦書きだと。それで、横のものが入っているということで、いかがなものかと。それとか、文字の大きさも若干不統一の部分も題材にあったような感じがしました。光村図書はやはり基本中の基本で、スタンダードな教科書で、大きさも非常に落ち着いていて、内容も充実していて、適切ではないかと全体的に思いました。

以上です。

○委員長　ありがとうございます。

最後に私のほうからですけども、やはり国語として、中学生として読ませたい教材、あるいは、基礎・基本の確実な習得に向けた国語としての指導事項がどこまで触れられているか、あるいは、学習の見通しだとか、学びへの広がりというようなところ、それから、思考力、表現力、判断力という観点ですね。それから、漢字、あるいは語彙、そして最後に、２次元コードの違い等を見させていただきました。大体皆様と同じ意見を持っており

まして、国語教材として、ぜひ適切な会社を採択いただけたらありがたいなと思った次第でございます。

よろしいでしょうか。国語については以上とさせていただきます。

続きまして、国語（書写）をお願いいたします。書写についても４者ですね。よろしくお願いいたします。

○○副委員長、お願いいたします。

○副委員長　書写の場合は、１・２年生がそれぞれ２０時間程度、３年生だと１０時間程度という非常に短い時間の中ですから、基礎・基本をしっかり押さえることと同時に、考える、そんな教科書がいいだろうなというふうに思います。

東京書籍は、手書きが少ない中で、あえて手書きの意味というものを問い始める導入で、なおかつ、あと、「書写のかぎ」というものを散りばめながら、基礎・基本を押さえている教科書であったと思います。

三省堂のほうは、書いて身につけようみたいな趣旨で、各教材が見開きで、見やすくなって、学習目標がしっかりと明示されていました。都道府県名全部を漢字でなぞる教材、あれは結構いいのではないかと。大人でも書けないのではないかという気がしました。

教育出版は、導入がとても丁寧で、学ぶ内容、進め方、基本がしっかりとまとまっていたと思います。幅が広くてゆったりとして、見やすい。ただ、机の上に置いたときにどうかなというところはありました。

光村図書、これもゆったりとした紙面で、イラスト等があって、すごく見やすい紙面であるというふうに思いました。あと、別冊の「書写ブック」、これは大人になっても持ち運んで使えるかなと。あと、ここでは、３年生の最初に手書きのよさを考える漫画教材があって、これは面白いなと。やっぱり、手書きと、今のワープロの、その辺のところを考えさせたら面白いのではないかと思いました。

以上です。

○委員長　ありがとうございます。

○○委員、お願いします。

○委員　東京書籍は、書写という作業を伴う教科の中で、ページのレイアウトもよく、見やすい、活用しやすそうだというふうに感じました。巻末の「書写活用ブック」も充実しているので、発展的に捉えていけそうだというふうに思いました。

三省堂です。三省堂の国語の教科書で扱われている谷川俊太郎さんの「朝のリレー」を

最初の部分に持ってきているというところは、非常に関連づけられていて、いいなと思って、ほかの発行者でもあるのかなというふうに探してみましたら、教育出版が金子みすゞさんの「ふしぎ」をやはり、教科書のほうは活字で、こちらのほうは硬筆というんですか。それでやっていて、こういう関連づけているところは非常にいいなというふうに思いました。三省堂は、イラストなどがやや多過ぎるのではないかというふうに思いました。

教育出版は、今も言いましたけれども、教科書と関連づけて、同じ詩を巻頭に持ってきているところがよかった。それから、本のサイズの違いを生かしているところがよい。「生活に生かそう」というコラムなどは、書写がさらに広がっていく学習ができそうだというふうに感じました。

光村図書は、別冊の「書写ブック」は非常によいアイデアで、使いやすいというふうに思いました。それから、ほかの会社と違ったのかなというふうに思いますけれども、毛筆のところで、薄墨で筆のタッチを表現していたところが、力を入れる部分、抜く部分であるとかが非常に視覚的に見やすかったというふうに思いました。

以上です。

○委員長　ありがとうございます。

○○委員、お願いします。

○委員　少ない指導時間の中でいかに効果的に使えるかということだと思うんですけれど、４者ともどれもそれぞれの工夫点があって、どれもいいなと思ったんですね。その中でも東京書籍が、これは指導者からすると教えやすいというか、使いやすいというか、そういった部分があるように思いました。学習内容が段階的に高まっているという、これもすごくはっきりしていて、いいと思いました。

以上です。

○委員長　ありがとうございます。

○○副委員長、お願いします。

○副委員長　東京書籍です。○○委員からもありましたように、学習内容が段階的に高まっていけるような運びになっています。「見つけよう」、「確かめよう」、「生かそう」というようなことでの書くときのポイント、学び合うための手だてなども掲載されていました。また、「生活に広げよう」というようなところ、これも非常に関心を持ちましたが、ページ数がやや大きめかなという気もいたしました。筆のキャラクターなどを用いて、子どもたちの興味、関心というようなところもうまく作られているなと思いました。２次元コー

ドにおいては、多く掲載されているのですけれども、見出しがなく、ちょっと使いづらいかなというような気がいたしました。

三省堂です。国語や書写の既習事項を生かした教材というようなイメージを受けました。発達の段階に応じたなぞり書きから清書までができるような、練習がたくさんできるような構成になっていました。お手本が半紙と同じ大きさだというところは、なかなか使いやすさがあるのかなという気もいたしました。また、学年ごとに目次で示されたり、学習活動も進めやすいのかなという捉えをしました。２次元コードも多く掲載されていました。こちらには見出しがありましたので、使いやすいかなというイメージです。

教育出版です。姿勢、用具の使い方というようなところが、写真が多く細かく示されていて、文字を書く以前のところにも力を入れているのだなという捉えがあります。また、ポップを作ったり、ポスターを作るとか、書写ですので、イメージとしては字を上手に書くイメージなんですけれども、目的や対象を考えながら、日常生活とか、社会生活に生かせるような、そんなイメージを持ちました。と同時に、振り返りの欄があったり、「考えよう」、「話し合いメモ」など、書くためのポイントを考えたり、学びを深めるための手だてもあるのだなというところを感じました。こちらも、ウサギのキャラクターがあって、子どもたちにとっては非常に面白いかなと思いました。また、２次元コードについては、多く掲載はされているのですけど、こちらもコードに見出しがないのだなというような思いです。

最後に光村図書です。補助教材としての「書写ブック」、これはなかなか面白いなというふうに思いました。身につけた力が確認できるようなものになっています。また、こちらも、お手本が半紙や書き初めの大きさと同じというところもなかなか興味深く思いました。それから、「防災フェスタをひらこう」とか、「職業ガイドをつくろう」といったような、目的、対象を考えながら、日常生活、社会生活に生かす教材などもありましたので、非常に使い勝手が、いろんなものに生かせるのだなと思いました。それから、２次元コードなんですけれども、こちらも多く掲載されていて、見出しもつけられていて、さらに面白いのは、右利き用、左利き用の動画があるんですね。これもなかなか面白いなと思いました。

以上です。

○委員長　○○委員、お願いします。

○委員　生徒にはなかなか、日常生活ではなじみが薄いかもしれないですけれども、毛筆

の部分がどういうふうに出ているかというところで見ていきました。どの会社さんも、例えば、筆の運びを擬音語で示している東京書籍とか、感覚的に毛筆の書き方を身につけさせようという工夫があるなというふうに思っています。また、東京書籍では、筆の運びを動画を使って見せているということも工夫かなというふうに思いました。

三省堂は、特に、教科書自体が書いて身につけようという考え方の中で、やはり、同じように、穂先の動きとか、筆圧の違いが明示されているなというところ、それから、お手本が半紙の大きさと同じであるということは、写すとき、何かのときに活用できるかなというふうに思いました。

教育出版さんも、やはり、筆圧の違いを写真を用いて比較しているなというところが分かりました。

それから、光村図書ですけれども、やはり、筆の運びを擬音語で感覚的に理解させているような部分とか、穂先の動きをきちんと見ている部分とか、もう一つは、お手本の右側に筆順が書いてあったりして、だんだん自分でできるような工夫がされているなと思いました。光村図書も、やはり、お手本が半紙や書き初めの紙と大きさになっているというところも使いやすいかなと思いました。

以上です。

○委員長　○○委員、お願いします。

○委員　書写は、こんなふうに工夫をして、いろんな筆の動きとかを載せられるのだなというふうに全体的に思ったわけなんですけど、字が常々きれいになりたいと思っている自分としては、練習ができるところがたくさんあるのは、大人になってもこういうものは欲しいなと思うところがありました。三省堂の、練習がたくさんなぞってできるところとか、それから、光村図書の「書写ブック」とかは、今の自分でも欲しいなと思うような感じがあって、よかったなというふうに思いました。こういうふうにやりますよという説明の後に実践ができるというものがあると、子どもたちもやってみようという気持ちになるかなというふうに思って見ていました。

以上です。

○委員長　○○委員、お願いします。

○委員　子どもたちの興味、関心を引き出すという意味では、三省堂の４７都道府県のなぞり書きは本当に面白そうだなと思いました。今、○○委員からもありましたけど、本当に大人になってもこれを、今、自分もやってみたいなとか、面白そうだなというふうに思

うということは、教える側としても興味、関心を引き出しやすいと思うし、子どもたちにもそういうふうに伝えやすいかなと思います。光村図書の「書写ブック」もそうですし、興味、関心を引かせられるような工夫というものが、全ての会社にもあるのですけども、特にその２つの会社のものはとても面白いなと思いました。

以上です。

○委員長　○○委員、お願いします。

○委員　毛筆と硬筆がありますけれども、硬筆の練習が非常によく設置されているのは三省堂だというふうに思いました。毛筆は、ここで教科書に書き込むということはなかなか難しいので、半紙を用意して、そこに書くというふうになりますけど、そのときに、横に置いたお手本が半紙と対応しているというところは、よりユニバーサル的なのかなというふうに思いました。教科書の大きさが違うというようなところでしたね。

あとは、構成と教材、そういったものは全社が適切だというふうに感じました。

以上です。

○委員長　○○委員、お願いします。

○委員　東京書籍です。基本の点画の書き方というところで、筆のキャラクターがいて、筆の動かし方が、「トン」、「スー」、「ピタッ」というふうに言葉もついているので、子どもたちが想像しやすく、書きやすいのではないかというふうに思いました。

それから、三省堂のほうですが、「文字の移り変わり」というところで、昔の字の形ができたところから、現代の字になるところまでが、各発行者で出ていたと思うんですけど、三省堂のほうが見やすかったかなというふうに思いました。

教育出版のほうですが、行書の筆遣いのところで、こちらのほうは、筆の穂先の動かし方を手のイラストで分かりやすく説明しているというところが、また違う表現の仕方だなと思って、ちょっと興味を持ちました。あと、教育出版の中では、「あの人が残した文字」というところで、著名の方の昔の字を見るということで、渋沢栄一さんとか、夏目漱石さんとかの字が出ているというところが、資料としてになると思うんですけど、こういう方たちの字を見るということもいいかなというふうに思いました。

あと、光村図書のほうは、「書写ブック」があるということはやっぱりいいかなというふうに思ったのと、「手書きのよさって、何だろう」というふうに漫画で描いてあるところというのは、子どもたちに、最近はパソコンとかタブレットで生活していることが多い中で、手書きのよさというものを知ってもらうためにもいいかなというふうに思いました。

以上です。

○委員長　ありがとうございます。

○○委員、お願いします。

○委員　それぞれの会社さんで、書くこと自体への興味の引かせ方とか、導入が結構様々で、印象的でした。

東京書籍さんは、「文字を「書く」ってなんだろう」で、１年生で「身につける」、２年生で「使い分ける」、３年生で「使いこなす」という目当てが分かりやすく、また、じゃあ、どうするかということで、動画の細かい画面の角度を変えて、こういうふうに書くのだよと。また、それはデジタルなので、自分１人でも振り返ることができますし、「書写活用ブック」は様々な字で、実生活なんかでも使えそうで、とてもよかったと思います。

三省堂さんは、こちらは、特にデジタルの充実が印象的でした。トップの一覧があるのがとても見やすく、使いやすくて、いいと思います。はがきを実際に書けるというコーナーもあったかと思うんですが、そちらも実生活への、じゃあ、これをやってみよう、こうすればよかったはずというようなことで、発展しやすくて、いいかなと思いました。

教育出版さんは、文字の役割というのは、まず、伝えるものであり、どうして読みやすいのか、伝わりやすいのかということを可視化していて、それを学ぶ展開、学習の進め方なんかも分かりやすかったと思います。

光村図書さんは、スタートが文字を分解する、文字自体への興味を引く、理解するという形で、それがまた変わっていて、面白かったです。行書の活用、ポスターなどで、こんなフォントを見つけてみたなんというところがありました。３年生では、フォントを使い分けるとこんな効果があるよということで。また、コーナー的なもので入学願書の書き方なんかもありまして、ちょっと読み込んでしまいましたけれども、なるほど、どこも実生活へこういうふうに展開していくよという流れがとても工夫されていました。こちらの「書写ブック」もぜひ使ってみたいと思うような内容でした。

以上です。

○委員長　○○委員、お願いします。

○委員　東京書籍さんは、「基本の点画の書き方」で「トン」、「スー」、「ピタッ」という擬音語を用いて、分かりやすかったです。見本のサイズがちょっと小さかったので、半紙と同じがいいなと思いました。

三省堂さんは、逆に半紙と同じ見本の大きさで、とてもよかったと思います。あと、説

明が簡潔で、見やすい。あと、練習の量が多くて、よかったです。

教育出版さんは、筆圧の違いを１から３の３段階の数字で表していて、分かりやすかったです。「書写テスト」でポイントを確認できるところがよかったです。

光村図書さんは、巻頭の「書写ブック」が分かりやすく、あとは、巻末のほうに「人命用漢字表」というものが載っていて、ふだんは自分のお名前というものを教えてもらう機会はなかなかないと思いますので、こちらのほうはよかったと思います。

以上です。

○委員長　○○委員、お願いします。

○委員　聞いていて、僕と意見が結構違うなと思ったのですが、書写というのは、高校になると、美術とか、書道と、音楽と並ぶ。要するにアートになってしまうのですが、中学校ではどうも昔の寺子屋の読み書きそろばんの「書き」の部分という感じで、何か字が書けるようになればいいでしょう、きれいな字が書けるようになればいいでしょうということだと、東京書籍が非常に推されていて、確かに、段階的に高まっているという点で、いいかなと思うんだけど、これは、生徒の側から見たら、修業なので、面白くも何ともないのではないかと僕は思いました。

そのほか、三省堂と教育出版も割と修業が多くて、４７都道府県のなぞり書きが好評なことはちょっと僕には理解できなくて、修業をするのだったら、新潟の「潟」の字なんというものは要らないはずです。そこにしか使われていません、世の中で。だから、あまり意味のある修業になっていないのではないかと思います。――すみません。今、教育出版と言ってしまいましたね。光村図書です。光村図書も修業という感じがして、あまり興味を持てない。

いいなと思ったものは教育出版で、教育出版は、多分中学校の範囲を超えてしまっているかもしれないですが、アートとしての書道という感じが非常にして、短冊とか色紙を書くとか、それから、「竹取物語」の一節を書くにしても、本物は「竹取物語」の上にあるのだけど、別にそのまま写すのではなくて、自由に書く、行書で書くとか、上は草書なんだけどというような感じでやってあったり、それから、「あの人が残した文字」、これをいいと言っている方がおられましたが、こういうものは非常に興味を持つのではないかと思います。「日本建築と「書」」とか、そういうものもあって、「書」というのは、別に実用的に使うだけではなくて、既にそこらじゅうにあるので、それを見て、例えば、将来デザイナーになる方が生徒でいたら、中学生のときにこれを見たとかいうことで、将来プロに

なれる道が、むしろ今、それがいっぱい開けていて、デザイナーさんはレタリングと切っても切れないです。レタリングができないデザイナーさんなんという人はいないはずなので。ということで、僕は教育出版以外は古典的過ぎるという感じがしました。

以上です。

○委員長　○○委員、いかがでしょうか。

○委員　文字を書くということについて、中学校でもう一回振り返ってというふうになると思うんですが、それをまとめて説明してあるのは、例えば、光村図書が毛筆の筆遣いということで９種類あるよというふうにまとめて、きちんとそれが説明してあるというところはいいなというふうに思いました。筆順についても、筆順の原則ということと、それ以外に「間違えやすい筆順」という項目があって、その説明をしているところは、これもなかなかいいなというふうに思いました。それから、文字の形についても、こういう形があるんだよという。例えば三角型とか、中心に集まっている形とか、四角くバランスが取れている形とか、様々な形があるということも、説明として分かりやすいなというふうに思いました。

筆遣いについては、三省堂も同じような説明の分かりやすさというものがあったと思います。

あと、字の形とか、配列とか、点画については、東京書籍の説明が一番分かりやすいと私は思いました。

それと、最後のところに漢字索引ということで、楷書と行書がずらっと並んでいるのですが、それは、教育出版だけが部首索引になっているのです。ほかは５０音順になっているのですけど、部首索引より５０音順のほうが引きやすいのではないかというふうに。中学生としてもそうではないかというふうに思いました。

以上です。

○委員長　ありがとうございます。

○○委員、お願いします。

○委員　なかなか難しいのですけども、昔は書道、習字、書写、写しましょうというような感じで、「道」の部分があったのですが、それがだんだん、時間数との関係で、書写、きれいに写すということですかね。今は字も「書く」から「打つ」ですから、もう一度きちんとということで、しっかりと心で毛筆で書く練習、楷書、小文字、大文字、崩しというものがあって、なかなか指導は難しいのですけども、結局は、教科書の見本を教科担任

がまたプリントアウトして、今日はこれを書きましょうと、半紙の大きさで私らもやりましたが、そこで教科書の活用ということですね。写すだけではなくて、心して書きなさいということで、非常にそこに子どもたちの体験学習的な書写の時間になってしまって、なかなか子どもたちに定着しないので、難しいのですけども、教科書できちんと書いてあるのは、教科書と半紙の大きさが統一されているものが非常にいいのではないかと思いましたので、甲乙つけ難いですが、歴史がある４者が書写の教科書を出したものですから、どれかということはなかなかあれなんですが、紙とお手本がしっかりしているものが一番いい。大きさが同一のものがいいのではないかと。縮小判の見本ではないものを選べばいいのではないかと思いますが、中には、お手本の大きさが半紙より小さい教育出版とかがありましたが、やはり王道のところで、教育出版辺りがいいかなと思っています。

私の意見です。

○委員長　ありがとうございました。

私のほうから少しだけお話をさせていただきますと、本当に授業時数がかなり少ないですので、いかに効果的な学習ができるかという観点だとか、やはり、生徒の意欲、関心をどう引き出しているのかなというところを見させていただいて、日常生活との関連づけということは非常に分かりやすいのかなというふうに思いました。あと、○○委員もおっしゃっていましたけど、学習段階の高まりといいますかね。それがないと子どもたちも知的な好奇心を刺激できないので、そういった配慮がなされているかなというふうに見ておりましたけども、これもやはり、４者ともそれぞれ特徴を出しているなという印象がございます。これは時数も少ないので、学校の先生たちの意見を、私は非常に関心を持って読ませていただきました。学校の先生方が少ない時数の中でどう生かしていただけるかなという視点で見たところでございます。

書写についてはよろしゅうございますか。

それでは、続きまして、数学に入りたいと思います。

○○副委員長のほうから数学について、７者ございますが、よろしくお願いいたします。

○副委員長　時間が限られているので、いいと思った３者程度を述べさせていただきます。

数学の場合は、基礎・基本の定着と、数学的な思考、判断、表現、あと、数学と実生活とのつながり、その辺が理解できる教科書がいいだろうなと。

私は、東京書籍と教育出版、啓林館、その辺が学びやすいかなという印象を持ちました。

東京書籍は、テーマが「つながり」ということで、社会とのつながりとか、数学同士の

つながりを非常に意識させている、至るところにつながりを意識させている内容でした。あと、１年生の最初に、１章の前に０章というものをつけて、算数から数学へと、小から中へのなだらかな接続を意識しているので、いいなというふうに思いました。

教育出版は、なぜ、どうしてと問いを持つこと、自分で考えたり、話し合ったりして解決することの大切さの解説で入って、あと、あわせて、数学的な学び方、見方、考え方を丁寧に説明しながら教科書は進んでいました。章末の問題は、基本の「たしかめよう」、「力をのばそう」、「学んだことを活用しよう」というふうに段階的に多岐にわたって、個に応じた指導がしやすいかなと思いました。

啓林館では、表紙を開くと、ＧＩＧＡスクール構想を意識したＩＣＴの活用というものを前面に出して、新しい時代とのつながりを意識した教科書だと思いました。最初のほうに、表現する力、課題解決の力、確かな学び、大切な数学の考え方と、やはり導入を丁寧にして、あと、６人の仲間が一緒に学ぶような形式で３年間の学習が進んでいて、学びやすいかなと思いました。あと、個人的には、「ふわりん」というかわいらしいあれが時々ぽそぽそと解説を加えて、面白いなというふうに思いました。

ほかの教科書も、やはり基礎・基本、応用と、バランスはいいのですけど、私自身としてはその辺に興味を持ちました。

以上です。

○委員長　ありがとうございます。

○○委員、お願いします。

○委員　それでは、全部の会社について早口で行きたいと思います。

大日本図書です。ページのレイアウト、空間の使い方も見やすく、色遣いも統一されていて、非常に使いやすそうに感じました。課題学習は、数学とほかの教科との関連づけが非常によくされていて、よかったと思います。

東京書籍です。ページいっぱいの使い方は圧迫感があって、色の使い方も多過ぎるのではないかと感じました。これは東京書籍だけではないですけれども、厚紙の展開図というものが巻末のほうにつけられていて、平面図から立体というようなものに、授業をやっている中で、指導者の準備が少なく、生徒のイメージを発展させていけるような工夫がされていて、非常にいいなと思いました。ただ、これは今回から始まったことではなくて、きっと前からあるのかなというふうに感じています。小学校との関連も非常によかったと思います。

学校図書です。章ごとの色分けや各章のまとめがすっきりしていて、使いやすいなと感じました。「さらなる数学へ」という部分が、共同学習、１人だけではなくて、ほかの人たちとも一緒に数学を使っていくという、使える数学への発展という意味で見られているところがよかったと思います。

日本文教出版です。すっきりまとまっていて、色遣いもよく、効果的でした。巻末の「数学マイトライ」は、発展として数学に興味、関心を持たせる、いいまとめ方だなというふうに思いました。

数研出版です。各学年の表紙の上に、「日々の学びに数学的な見方・考え方をはたらかせる」というふうな文言が書かれていて、これは、数学をこういうふうに捉えて教科書を作っているのだということで、非常にいいなというふうに感じましたが、図形や文字のバランスがちょっと見づらい、それから、イラストを吹き出しがどの学年も多過ぎるのではないかというふうに感じました。

啓林館は、「表現する力を身につけよう」ということで、数学をさらに発展させていこうというようなところに力を置いている。それから、「数学ライブラリー」などは、興味、関心をさらに深めていけるような部分になっていました。

教育出版です。学びのプロセス、学びやすさなどは、非常に扱いやすそうだというふうに思いました。それから、「工夫してノートを書こう」ということで、数学版のノートの取り方というところがすごく画期的だなというふうに思って、使いやすいかなと思いましたけれども、きっと数学の先生たちは、授業の初め、中学校に入ってきたときに、数学のノートはこう取っていきましょうというふうなことを教えてから進めていくのかなというふうに思いますので、ここの部分が使いよいのか、使い悪いのか。ただ、こういう視点は非常に大事だなというふうに思いました。

以上です。

○委員長　ありがとうございます。

○○委員、お願いします。

○委員　数学は、本区でも全校で少人数、習熟度別で指導をしているわけですので、そうなると、やはり、教科書の中で、基礎・基本から補充・発展的な内容まで、バランスよく問題が、内容のあるものがいいのではないかと思うんですね。よく数学の教員がプリントとかを配っている場面を見ますけれども、そうではなくて、教科書で全て完結できるようなものがいいと思うんですね。そうなってくると、学校図書と啓林館、その辺りがうまく、

基礎から発展まで問題が充実しているように思いました。

以上です。

○委員長　○○副委員長、お願いします。

○副委員長　東京書籍です。内容のポイントがつかみやすい表記であるなということが第一印象でした。２次元コードにおいては、問題ごとに小まめに２次元コードがあるものですから、予習、復習というような部分で非常に使いやすいのではないかと思いました。

大日本図書です。図やイラストなどが非常にシンプルだなという印象。しかも、「活動」、「例題」というようなところで、非常に取り組みやすい教科書のスタイルだなというふうに思いました。２次元コードについては、ちょっと量的には物足りなさを感じました。

学校図書です。目標や狙いが明記されているので、ここはすごくいいなと思いました。２次元コードについては、アニメーションが非常に学習のイメージを捉えやすくしているなというところでの工夫を感じました。

教育出版です。こちらも狙い（目当て）が明記されていて、学習の内容をイメージしやすいというようなところ、分かりやすく、読みやすい表記だなというふうに思いました。２次元コードにおいても充実していまして、アニメーション、動画の活用、イメージを膨らませるような工夫がありました。

啓林館です。表現、表記が共に分かりやすく、読みやすいというイメージですけれども、例示が丁寧なところと、そうでないところとの差があるなというふうに感じました。２次元コードについては充実しています。補充問題が非常に充実しているという印象です。

数研出版です。狙い（目当て）が明確に示されているというところ、それから、計算の仕方というようなところでは、スモールステップで丁寧だなというところは、非常に基本的な学習スタイルで、よいのかなというふうに思いました。２次元コードについても充実していますし、補充問題から考察、探求に至るまでの幅広い活用ができるような内容を感じました。

日本文教出版です。問題、解決、振り返りというような流れに着目をし、活用しやすい印象を持ちました。目当ての表現も簡潔で、分かりやすさがありました。２次元コードについても充実しており、動画、アニメーション、シミュレーションみたいな部分の豊富さを感じました。

以上です。

○委員長　ありがとうございます。

○○委員、お願いします。

○委員　個別最適な学びという意味では、それぞれの生徒の進度や発達に応じて問題が充実しているなと思われるものは東京書籍、学校図書、それから、啓林館などだと思いました。

一方で、共同的な学びを促すような記述がよくされているなと思ったものは大日本図書です。

それから、日常生活との関わりということで丁寧に書いているなと思ったものは、大日本図書、教育出版、それから、日本文教出版、この３者がそういうふうに書かれているなと思いました。

また、啓林館と数研出版は、入試問題や何かについても少し充実して書かれているなというふうに思いました。

以上です。

○委員長　○○委員、お願いします。

○委員　東京書籍は、「学びのマップ」とか、補充問題とか、問題が充実しているなというふうに思っています。

また、大日本図書は、「仕事のなかの数学」とかというコラムがあったりなんかすると、実際に数学が何に使われるかみたいなところはちょっと難しくて、計算練習とか、練習問題とか、そういうことになりがちなんですけど、そういうものが読み物としてあるというのは、授業で扱う、扱わないというよりも、子どもたちが読む読み物としては、興味を持てるきっかけにはなるかなというふうに思いました。

それから、学校図書は、「Ｔｅａ　Ｂｒｅａｋ」とか、そういうことで、日常につなげていこうとか、仕事につなげていこうとかというような内容というか、これがこれにつながっているのだとか、これがこれに使えるみたいな内容がいろいろなところに散りばめられている感じがあったなというところが印象的です。また、「さらなる数学へ」とか、発展とかという問題も多く、総合的に問題が多かったかなというようなところになります。

それから、教育出版ですけど、「ひろがる数学」ということで、発展的な問題とか、「数学の広場」とかというところで、発展を重視しているのかなというようなところがありました。

それから、啓林館についてですけど、「ふりかえり」、「力をつける」、「生かす」というところで、段階をつけて発展をしていく形の流れなのかなというようなところです。

数研出版は、補充問題と「チャレンジ編」というようなところがあって、その間とかというのはなかなかあれかなというふうに思いながら見ました。

それから、日本文教出版についてですけど、巻末にいろんなトピックのページがあったりなんかして、その辺りは面白そうだなというようなところと、あと、作りとしてはシンプルな感じがするなというふうに思いながら見ました。

内容の順番のあれこれは教科書によっていろいろというようなところがある分野もあるわけなんですけど、その辺りも含めて、どれもそれぞれが考えられているなというところです。

以上です。

○委員長　○○委員、お願いします。

○委員　各教科書会社は共にいろんな工夫があるのだろうなというふうなところを見ていましたが、まず、全部の教科書を見てみて、見やすさで言ったらば、私からしたらですけど、大日本図書、あとは、啓林館がすごく見やすく、そして、教育出版だったなと思っております。

大日本図書は、王道というか、昔から数学の教科書はこんな感じだよねみたいな感じの思いを私は持っていて、私は中学生のときに大日本図書を使っていたのですけど、これが懐かしさも感じたり、王道だなというようなところで見ていました。

ただ、啓林館に関しては、シンプルで、すごく見やすい中で、あと、問題数が多く、演習量が多くて、とても数学の力をつけるにはいいのかなという思いもあったのですけども、今、ＡＩドリルがとても発展してきている中で、果たして教科書にどこまで問題量を求めるかということは難しいなというふうに感じていて、学校の数学の先生がどのような教科書が使いやすいかということは、ちょっとなかなか難しいなというふうな感じを抱きました。

教育出版に関してですけど、教育出版の「？はてな」、「！なるほど」、「！？だったら」何々という流れ、このような形が各章であったのですが、それがやっぱり面白いなと思いました。社会科の教員としては、やはり「？はてな」から「！なるほど」とかは同じ流れなんですけども、それを社会に出たときに生かす。これだったらどうなんだろうかとか、自分の考えを広げるような、発展的な思考になるような作りなっているというところはとても面白いなと感じました。

以上です。

○委員長　○○委員、お願いします。

○委員　教科書だけで完結させるのか、それとも、副教材を活用するのかということで、また観点が変わってくるのですけども、２次元コードを活用したものは、必須の教科書会社と、あとは、プラスアルファの教科書会社があるなというふうに思いました。数学をより学びたいなとか、原理は何なのかということをさらに知りたい子はこういうもので学んでいくと。さらに練習問題に取り組みたいという場合には、２次元コードで練習してねという会社があって、まちまちだなと思いました。どれが採用されても、当然、指導しなければならない内容は全て網羅されているのですけれども、その中でも、発展的な課題だとか、対話的な課題、そういったものは各社で個性豊かになっているなというふうに感じました。ただ、確実にここは押さえてほしいというところは、データの活用などで、あるところがちょっと足りないなというところがありました。現行の学習指導要領で、割と最近入っているデータの分析、箱ひげ図なんというものが、生徒が身近に感じるような事例が示されているというものが前の教科書よりも増えているというような印象は各社で感じました。あとは、見たときに、何を学ぶのか、目的は何かということが明示されている。あとは、最後に、こういったことを振り返るということが明示されているものが多いというふうに感じました。

以上です。

○委員長　○○委員、お願いします。

○委員　東京書籍のほうは、単元の中の節ごとに基本問題のまとめがあって、分からないときに教科書の本文を見直せるようにページ数が書いてあるということで、つまずきがなくなるようになればいいかなというふうに思いました。

あと、大日本図書のほうですが、表や式、グラフのまとめが見やすかったと思います。数字の動きのほうも矢印で示しているというところもあったので、分かりにくいというところも、苦手な子にとっては少しでも学びやすくなるのではないかというふうに思いました。

学校図書のほうですが、２次元コードの中のドリルのまとめの中で、何秒で問題を解くかということを自分で設定ができるところはいいなというふうに思いました。何秒で解くかというところの設定と、付箋で隠すか、または自分で入力をするというところで、問題を自分のレベルに合わせて解いていくことができるというところはいいと思いました。

教育出版のほうですが、小学校からの学び、中学校への学習の変化というふうに示され

ているところが分かりやすかったというふうに思います。あと、先ほども出ましたが、「？はてな」、「！なるほど」、「！？だったら」というところで、見方や考え方の力をつけていくところはいいというふうに思いました。

啓林館のほうですが、「ふりかえり」が充実していたと思います。分からないことをそのままにしておかないで復習することの大事さがすごく分かりやすくできていたなというふうに思いました。あと、「数学ライブラリー」というところが１７個入っていたと思うんですけど、これも興味深かったので、子どもたちも読んでほしいなというふうに思います。

数研出版のほうですが、問題の中で、「ｙ」としてほしいところ、「ｘ」としてほしいところが、例題以外のところで下線とか波線を引いて表しているところがあったので、それも分かりやすくて、いいかなと思いました。

日本文教出版のほうですが、こちらのほうのデジタル教材のところで、基礎を身につけるというところと、図形のまとめを見るというところはすごく見やすかったと思います。

以上です。

○委員長　○○委員、お願いします。

○委員　どこも色遣いはカラフル過ぎず、工夫していて、問題に集中できる配慮が見られたと思います。問題も、確かめや、補充など、用途によって使える問題が多数で、よかったなと思います。

特に、東京書籍さんは、「ＭＡＴＨ　ＣＯＮＮＥＣＴ」をコンセプトに、数学の発見とか、社会とのつながりで興味を引く内容で、これがよかったと思います。ただ、なぜかインデックスが薄くて、ちょっと見にくかったなと思います。デジタルのほうで、計算の途中の解説も丁寧であったことがよかったです。「学びのベース」のヒントとか解答が２次元コードになっていることも、使い分けができて、いいかなと思いました。

啓林館さんは、こちらは日本文教出版さんもそうなんですが、誤答例とその解説というものがあって、どうして間違えやすいのかという仕組みを知ることは大事だなと思いましたので、これがあることはすごくポイントが高いなと思いました。３年生でのノートの工夫、こちらは啓林館さんだと思うんですが、特に、３年生でノートの見やすさ、作り方ということを改めてということは大事かと思いました。問題を解く以外の表現への発展とかにも力を入れているように思いました。

学校図書さんのデジタルがちょっと気になっていて、解答の振り仮名が「かいこたえ」

になっていて、全部に振り仮名を振っている優しさゆえに、ただ、それ自体は大したことではないのですが、デバッグの途中なのか、それを放置してしまっているところは、デジタルへの信頼的な意味で、ちょっと気になってしまいました。

以上です。

○委員長　○○委員、お願いします。

○委員　東京書籍さんは、学習内容とポイント、重点項目とかが最初に目に留まるような分かりやすいレイアウトで、よかったと思います。

大日本図書さんは、最初にノートの作り方を教えてくれて、とてもいいです。あと、学習した内容を使ってどういうふうに活用したり探求したりできるかということは、「仕事のなかの数学」ということで、自分の未来と数学のつながりについて考えることができて、よかったと思います。

学校図書さんは、表計算ソフトの活用の仕方がとても丁寧に説明されていて、これから先、仕事に就いていくことにとても向いていると思いました。あと、身につけた数学の力を使って、ＳＤＧｓの目標で、自分たちは何ができるかとか、そういうコンテンツがあって、とてもよかったです。

教育出版さんは、数学者さんや、気象予報士さん等、数学を使う職業の方々へのインタビューが興味深かったです。

啓林館さんは、「数学ライブラリー」の中で、章で学んだ数学と、生活との結びつきが語られていて、とても面白かったです。デジタルコンテンツのほうでは、図形を動かしたり、グラフと比べられたりして、例題の解説動画がとても分かりやすかったです。

数研出版さんは、「学んだことを活用しよう」ということで、思考力や表現力の育成に活用できると思いました。

日本文教出版さんは、デジタルコンテンツで、動画や練習問題、アプリケーションを使って自分専用のノートを作ることができるところがとてもよかったと思います。

以上です。

○委員長　○○委員、お願いします。

○委員　今、ちょっとお話が出たので、最初に言いますが、教育出版の小谷元子さんは非常によく知っている人なので、やっぱりいいことを言っているなという感じがしたので、これはぜひ皆さんに読んでもらいたいなとちょっと思いました。

それはともかくとして、４年前も数学を見たのですが、結構いろいろ扱っている素材が

違うなと思ったのですが、今回はどういうわけか、例えば、立体の表面積とか体積とかを求めるところで、もちろん区分求積法的な説明をするわけですけども、その説明のやり方が１者だけ、どの発行者だったかは忘れてしまったのですが、飛び抜けて優れていたのですけど、全然差がなくなってしまっていて、みんなパクって同じになってしまうのだなということを非常に感じました。あと、素材についても、視力検査で使うランドルト環とかはほぼ全部の発行者に載っているし、銅鏡の破片から中心を求める作図をするとか、そういう意味で特徴が非常になくなってしまって、均一化してしまったなという感じがするのですが、そうすると、記述が間違っているとか、余分なことを書いてあるということがちょっと気になってくるのですけど、日本文教出版は、「ふり返りシート」というんですか。「対話シート」というんですか。これは要らなくないですかと僕は思いました。優れているとおっしゃっている方もおられて、それも理解できるのですが、要らないと思います。

あと、数研出版は、巻末に読み物がついていて、それはいいのですけども、ユークリッド原論、これは他の発行者でも扱っているのですが、原論の説明が変です。ほとんど間違っています。何で間違っているかは言いませんけども。

それから、あと、いいなと思ったのは、ユークリッドとか、そういう昔の数学者の話をちょっと書くと、僕が中学生ぐらいのときに、例えば、どこの発行者も扱っていませんが、ガロアの話とかを聞いて、すごくかっこいいと思っていたのですけど、そういうふうに、昔の偉い数学者の話というのはとても劇的で面白いですので、書くべきだと思うんですが、そういう意味では、教育出版と学校図書と大日本図書は、どれも結構いろんな人を扱っていて、ある人は共通に扱われている人もいるし、この発行者でしか扱われていない人もいるという感じで、非常にいいと思いました。

その中で、ちょっとセレクションが面白いなと思ったのは大日本図書で、――フランスのブライユ、点字の話とかは非常に、ＳＤＧｓという点とか、多様性とかいう点でも、扱ってほしいのですが、載っている会社は何者かあったんですね。大日本図書は扱っています。あと、大日本図書は、ランドルト環を相似で扱うだけではなくて、芋煮会も扱っていて、芋煮会は面白いですよね。相似の例で非常に面白いのではないかと。あと、「音楽と数学」とか。

そういうわけで、教育出版、学校図書、大日本図書、東京書籍は割とどれでもいいかなと思うんですけども、大日本図書はその中でも非常に興味を引く例がたくさん扱われていて、他の発行者と違う例が扱われていて、いいかなという感じがしました。

以上です。

○委員長　ありがとうございます。

○○委員、お願いします。

○委員　算数から数学へというところで、数というものについてどういう説明をしているかなということと、あと、学習の仕方とか数学的な考え方とか、そういう点について比較をしてみました。

１つ気がついたのは、最初のところで、自然数とか素数とか、そういうところの説明からスタートして、正の数、負の数というふうに行っている発行者と、初めに正の数、負の数ということを説明して、それから自然数、素因数分解ということで、２種類あることに気がついたんですね。初めのほうに素数というのと、どっちがいいかはちょっと分からないですが、そういう２種類の発行者があるということに１つ気がつきました。

それと、いろいろ工夫をして、中学生になると数学嫌いがだんだん増えてきてしまうので、それを何とか避けようとしているのかもしれないですが、数学というのはこういういろいろな生活とつながっているんだよとか、数学的なものの考え方というのはこういうものだよというようなことの説明をしているのですが、そういう中では、教育出版の「数学的な見方・考え方」という、これを大切にしたいねということでの説明は分かりやすかったかなというふうに思います。決まりを見つけるということなんだと。いろいろなものについて、これはこういう決まりがあるねということを見つけるということが基本で、その見つけた決まりを基にしていろいろ範囲を広げていったりというようなことが教育出版の説明にはあって、それは分かりやすいなというふうに思いました。

学校図書なんかは、「問題を発見しよう」、「考えよう」、「まとめよう」、「次の問題を発見しよう」、「数学的な活動をしよう」、「説明しよう」、「振り返ろう」と、どんどんどこまでも行くという学習活動で、どこまで行くのだろうかということで、これはちょっといただけないというようなことを思いました。

以上です。

○委員長　○○委員、お願いします。

○委員　最近、数学を見るので、教育テレビの数学に関する番組をちょっと、何回か見てきました。今日も１１時から教育テレビでやっていて、楽しく学習するものがあって、今はこういう数学なんだなと。たすき掛けの計算をして、それを見せて、出していくと確認ができるよというような楽しい教育テレビの数学の時間があったので、それを何回か見て

教科書を見ましたけども、ちょっとかけ離れているのですが、教科書と、また、今、先生方が言われた何とかコード、視聴覚のこういうものを使っての学習で導くということで、生活に密着した数学、計算ということの視点で教科書を見てみました。たくさんあるのですけど、似たり寄ったりなんですが、王道のところでは、大日本図書とかが比較的シンプルで。でも、ここでつまずく中学生もいて、数学嫌いもあるわけですから、学習習熟度別のクラスの中でグループ分けをして、個に応じた教育に適した教科書というものがあれば、○○委員のお話にありましたけども、教育に適したものは大日本図書辺りがいいのではないかと思いました。

以上です。

○委員長　ありがとうございました。

７者もありますので、皆さん、大変だったかと思います。ありがとうございます。

私のほうからは、先ほど委員のほうから出ておりましたけど、学校においては少人数指導の授業展開かと思いますので、やはり、補充、発展のバランスだとか、特に、どんな指導法を取っても習熟の差が出やすいものですので、学び方とか、教え方のバリエーション、そういった工夫がどれだけやりやすいのかなということを見ながら、また、自学自習といいますか、教えやすさ、そしてまた、発展的な。これからはやはり、課題解決学習としてのデータ分析だとか、そういったことに関心を持っていかなければいけない。そういう出題も今後、人生の中で多くなってくるのではないかというふうに思いますので、そういうふうな実生活とつなげた数学といいますか、そういった意味で少し見させていただいて、どの発行者も、委員の皆さんがおっしゃったような特徴を持っているなというふうに思います。いずれにしましても、これもやはり、どの地区でもそうなんですが、都立高校の入試だとか、様々、進学の面でも大変大きなウエートを占めていきますので、ぜひ差が出ない学びができるような、そんな工夫がされている発行者を採択いただけるとありがたいなと思っております。

数学については以上７者ということでございますが、よろしゅうございますか。

続きまして、理科に入りたいと存じます。

それでは、理科について、○○副委員長のほうからまたお願いいたします。

○副委員長　理科の場合は、やはり、基礎・基本を習得できて、さらに、探究活動へいかにつなげるか、そこが大事かなということと、あと、ＳＤＧｓの目標と結構関連があるので、その辺についてどういうふうに取り上げられたかを見ました。あと、理科は苦手の子

が多いので、ぱっと見た感じで興味を示されるような、そんな教科書がいいだろうなと思っています。

その点で、東京書籍と啓林館が私の中では評価が高かったです。東京書籍は、表紙とか、表紙の裏が非常に、科学の世界に導くようなイメージを持っていて、あと、単元ごとの扉の写真も、見て、非常に迫力のあるものでした。教科書の導入で探究の流れや教科書の使い方が丁寧にされていて、使いやすいと思っています。３年生の最終章に「持続可能な社会のために」ということがあって、ＳＤＧｓの学びは３年生の最後に総合的に深められるのだろうなと思いました。

大日本図書のほうは基礎・基本を重視しているなという印象を持ちました。特徴的なことは、章ごとに読解力問題というものがあって、国語科との関連で、これはいい取組だなと思いました。

学校図書も基礎・基本を中心にという印象がありました。ただ、「なぜ理科を学ぶのか」ということを導入で漫画を使って分かりやすく説明して、仮説から検証、根拠を基に判断とか、そういったものを分かりやすくしている導入はよかったです。

教育出版は、「探究の進め方」ということが各学年の巻頭に示されていて、折り込みになっていて、振り返りながら、確認しながら勉強ができるようになっていて、いいなと思いました。教育出版も、疑問を持って、課題、仮説を立て、検証して、観察する、そういった科学的な思考のものが分かりやすく説明してあったと思います。

最後に、啓林館ですけれど、こちらは探究の学習に力を入れているなという印象です。１年生の表紙を開くとすごく美しくて神秘的な写真があって、「探究のとびらを開いてみよう」、「探究を始めよう」、「探究とは」と、探究の学習の重要性を最初に述べていました。章末には「学習のまとめ」、「みんなで探Ｑクラブ」とか、「探Ｑシート」なんというものもあって、その辺に力を入れていると思います。大きくはないですけど、随所にＳＤＧｓに関する記述があって、問題意識を常に持たせている教科書という印象を持ちました。

以上です。

○委員長　ありがとうございます。

○○委員、お願いします。

○委員　まず、啓林館は、「探究の流れ」ということで全体がまとめられていて、非常に分かりやすかったと思います。「学習のまとめ」、「力試し」の内容の分量も非常に適切であると思います。それから、章ごとに「注意イラスト」というものが入っていて、保護め

がねが必要であるとか、換気が必要であるとかというようなイラストが入っているのですけれども、実験などで事故ですとか、そういうものを起こさないために、これはなかなかいいアイデアだなというふうに思って見ました。

学校図書です。理路整然で、その章をさらに深めていくことができるまとめ方だと思います。「学習のまとめ」もシンプルで、非常に分かりやすかったと思います。ただ、まとめ方のコーナーで、「智に働けば役に立つ」というようなコーナーを使っているのですけども、教科書でこういう使い方をしていいのかなというふうに非常に。世の中で、いろんなコマーシャルですとかでこういうような使い方をするのですけども、どうなんだろうかと思って、非常に疑問に思いました。

教育出版です。図の入れ方ですとかは非常にシンプルで、分かりやすく、カラーの使い方もよかったと思います。重点と重要用語の扱い方、整理の仕方も非常にまとまっていて、分かりやすかったです。それから、基本問題、活用問題のまとめ方も非常によく、中学生が扱いやすそうでした。

大日本図書です。カラーが強過ぎていますし、写真や資料の入れ方が統一感に欠けているなというふうに思いました。ただ、読解力問題というのは、知識だけではなくて、いろいろな現象の中から理科的な見方でやっていくというような点ではいい視点ではないかというふうに思います。

東京書籍は、教科書のサイズですとか、横長の利点を非常にうまく使っているなというふうに思いました。それから、本文の中に、「図１」ですとか、そういうものを網かけ色抜きというふうにして、本文を読みながら、周囲にある資料ですとか、そういうものがすぐに関連づけられて、非常にスムーズに学習が進んでいく工夫がされていましたし、文字の扱い方も非常に有効でした。フォントを太字にしている意味があるなというふうに思いました。章末の「学んだことをチェックしよう」は、学習内容の整理が、確かめ問題ですとか、活用問題の量もよくて、非常にいいまとめ方がされていたと思いました。

以上です。

○委員長　ありがとうございます。

○○委員、お願いします。

○委員　理科というのは、扱いは実技教科になるわけじゃないですか。なので、理科の先生の授業というのは、いつ見に行っても実験や観察が中心で、いつも生徒が動いているんですよね。座学ではなくて、必ずグループで共同学習をしていたり、生徒が何かを考えて、

動いている、実験をしている、観察をしている、そういう授業の事前に用いる教科書だと思いますので、そういった視点からすると、指導者が実験や観察を生徒にさせやすい、そういった部分を見たのですけれど、そうすると、東京書籍が上を行っているように思うんですね。実験、観察について、上手に配置されている。安全な、けがをしないであるとか、「Ｂｅｆｏｒｅ ＆ Ａｆｔｅｒ」であるとか、そういった部分が上を行っているように思いました。

以上です。

○委員長　ありがとうございます。

○○副委員長、お願いします。

○副委員長　東京書籍です。写真等が刷新されて、分かりやすい資料、実験、観察の手順が１ページにまとまっているというところに使いやすさを感じました。また、「ここがポイント」などというようなキーワードがあったのはいいなというふうに思っています。２次元コードにつきましては、実験の説明が見られるというのはとてもいいなと思っていまして、各単元の内容を視覚的に捉えやすくする工夫がなされているなと感じました。

大日本図書です。シンプルで、分かりやすく、イラストが多いという印象です。２次元コードについてはあまり多くない印象でした。

学校図書です。色分けがシンプルでありながら、文章が長い印象を受けました。２次元コードでは、比較的分かりやすく、意識して組み込まれたものが使われているなという思いです。

教育出版です。文章は簡易的で読みやすく、イラストが多く、紙面も大きいということで、分かりやすさを感じました。２次元コードについてはほぼ全てのページにつけられていまして、学習内容の序説、「ＮＨＫ ｆｏｒ ｓｃｈｏｏｌ」などへのリンクがよいなというふうに思いました。ただ、実験等で活用できる記述というものがあまり見られないように思いました。

啓林館です。こちらも写真が多く、探究のプロセスに沿った資料提示があり、実験、観察の手順が上手にまとめられているなというふうに思いました。２次元コードにつきましては、既習事項の振り返り、実験内容、探究的な学習というようなことが動画等でも確認でき、２次元コードについては、非常に使いやすさ、勉強のしやすさを感じる内容でした。

以上です。

○委員長　ありがとうございます。

○○委員、お願いします。

○委員　理科の基礎・基本の定着という部分で見ると、最近の理科の教科書の中では、やはり理科は内容教科で、物理、化学、生物、地学の４つの領域がそれぞれ学年ごとに出てきますので、既習事項との関連というところを重視している、そういう教科書は幾つかあります。その中では、東京書籍は、既習事項は載っているぐらいかなと思っていて、大日本図書は、既習事項はしっかり関連性を持って充実されているなというふうに思いました。学校図書も既習事項については充実しているなというふうに思っています。一方で、学校図書は、探究の方法とか、そういう部分では充実しているかなと思いました。教育出版も同じです。探究、それから、教科書の使い方というところでは、啓林館も同じようなことが書いてあります。

同じく、基礎・基本の充実の中で、実験操作に関する内容を見ていくと、やっぱり、理科の授業をしていく中で、実験の授業があるときに、実験器具とか、操作の仕方ということはその都度あったほうが便利かなというふうに、そういう意味では、東京書籍、大日本図書、教育出版、啓林館もそうなんですが、実験の題材が出る、そのところで同じように基本操作というページを割いているのですが、学校図書は、基本操作のところを全部巻末にまとめていて、これはちょっと使いにくいかなというふうに思いました。

それから、２次元コードが充実しているなというところは、東京書籍、大日本図書辺りはそう思いました。

あと、もう１つは、教科書の配列なんですけれども、学習の進み具合から言って、１年生の最初は、どうしても４月、５月に、花の咲いている時期に花の分解をしたり、そういう内容があるので、１年生の最初は生物ということはいいのですが、他の発行者さんは、いろんな各発行者を比べると、配列がちょっと微妙に違っているんですね。その中で、３年生の教科書の配列で、最後に物理を持ってきている会社、化学、物理等を持ってきている会社があるのですが、もちろん、これは、実際に使うときに配列を変えて教えればいい話なんですけれども、ただ、教科書どおりにやっていくというふうに考えると、３年生の最後のところで化学、物理の実験がたくさんあって、考察や何かも時間をかける化学、物理が３年の最後にあるというのは、ちょっと使いにくいだろうなと思っていて、そういう部分では、教育出版と啓林館は、その辺の配列は難しいかなというふうに思っています。

以上です。

○委員長　ありがとうございます。

○○委員、お願いします。

○委員　理科は、写真がたくさんあったりとか、珍しいものを見られるとかというイメージがあり、理科の教科書は面白いなといつも思っているところなんですが、東京書籍は、いろいろ単元も分かりやすくまとめられているというふうに思ったのと、社会につながる科学とか、結構いろんなところにこういうものが今は発展的になっているというようなところが示されていると、そういうことに興味を持つというきっかけにもなるのかなというふうに思いました。

それから、大日本図書は、サイズがほかの教科書とちょっと違って、Ａ４だったと思うんですけど、広がっていないというか、ちょっと出っ張らないみたいなところがいいのかなと思いつつ、中を見ると、ややシンプルかなというふうにも感じました。資料集的な感じに考えると、ちょっと物足りないのかなというところで、理科の教科書は大きいかなというふうに感じました。

それから、学校図書は、紙がつるつるしていて、資料集っぽい感じがちょっとしました。それから、２次元コードが同じところにずっと載っているのは、ここにいつも載っているというのは子どもとしては分かりやすいのかなというような感じがしました。

それから、教育出版は、シンプルで、分かりやすくということが大きいかなというようなところです。

それから、啓林館は、表紙がちょっとおしゃれな感じがするなと思いました。それから、発展的なこととか、面白い資料集のような、写真がばあっと飛び出してというか、枠からはみ出ている写真とかがあるような感じがして、面白く見られるというところに工夫があるのかなというふうに思って見ていました。

以上です。

○委員長　○○委員、お願いします。

○委員　学校の同じ学年の理科の教員も、日頃から実験をどういうふうに楽しくやろうかなというふうに考えていて、今は、タマネギの苗を花屋に買いに行ったりとか、それも売っていなかったから、島忠に買いに行こうとかなんとかと、いろいろ探したりして、実験をどう子どもたちに興味、関心を持たせてやっていくかということをすごく考えているのを見ていて、教科書も、実験にうまく取り組めるというか、そういう教科書がいいなというふうに、私は見ていて感じたところです。子どもたちも実験をやる上で、教科書を見て、その実験のやり方等を含めて、やりやすい、そして、イメージしやすいものがいいのでは

ないかとなったときに、やっぱり、写真が多くあったりとか、実験の操作が難しくないようなものとかがいいのではないかというふうな感じで思ったときに、東京書籍のものは、写真も多く、図もあって、分かりやすく、教育出版も、図も多くて、分かりやすいのかなというふうな感じがしました。理科の先生は本当に知識も豊富で、特に、日頃の生活とのつながりであったり、社会の中にある疑問とか、そういうものとのつながりをすごく大切にしているような印象を持っているので、やはり、その２つを含めても、私の印象ではなんですけども、東京書籍、教育出版、そして、大日本図書も、そういうところの社会の中にある疑問とか、そういうところからの探究というふうにつなげていくのが面白いなと感じました。

以上です。

○委員長　○○委員、お願いします。

○委員　理科は、実験がとても楽しいと感じさせるところが大事かなというふうに思いますけども、次の授業は実験だよという感じの単発ではなくて、やはり、それまでの授業があって、その課題を確認するために実験がある。もしくは、観察の授業から入って、そこでそれをまた学ぶというようなことが大事かなというふうに考えます。そういう意味では、課題、発見、探究、実験、仮説、計画で、結果が出て、考察してというような流れがしっかりと書いてあるような教科書のほうが、生徒にとっては、この中のここが実験なんだということが分かって、いいかなというふうに思いました。前時と、次につながるような実験が、そことの関連だよというふうになってくれればいいなというふうに感じました。

あと、キャリア教育の観点から考えていくと、理科は、実生活、実社会にも非常に役立っている。あと、自分たちの進路を考える上では、こういうような分野での社会の職業があるよということが書いてある教科書が増えてきたなというふうな印象がありました。そういう点では、学校図書はその観点がちょっと少ないかなと。前までの教科書としては別に問題はないですけども、そういうところが目立ちました。

あとは、分野が理科にはいろいろありますので、その構成が違うということは、そうなんだということで、今、いろいろな話を聞いていて思いました。物理が最初に来ているのはきついとか、逆に、最後だときついというような意見もあったり、あと、１年生は生物から入ることが結構多いのですけども、生物、化学、物理、地学のほうがいいというような意見もあったり、あと、計算が苦手な子にとっては、生物とかから入って、化学に行くほうがいいというような意見もあったり、いろいろなんだなということを思いながら見て

いました。

以上です。

○委員長　○○委員、お願いします。

○委員　東京書籍です。教科書の３年間の巻頭のところを見たときに、１年生の教科書は「あなたのはてなはどんなはてな」から始まっていました。２年生は、「私の未来は何々かもしれない」という「かもしれない」というところがあり、３年生は「なぜだろう」というところがあったので、３年間を通してつながりを持たせているのかなというふうにすごく伝わりました。内容としては、単元ごとに「Ｂｅｆｏｒｅ ＆ Ａｆｔｅｒ」シートがあるというところで、学習内容の考え方と、学習後の自分の考えがどう変わったのかという振り返りができるというところがいいのかなというふうに思いました。デジタル教材についても、例えば身の回りの現象のところで、凸レンズの像の見え方というところで、３段階の光源の高さを変える設定があって、その中で、それを変えるとどういうふうに変わっていくかということがすぐに分かるというところで、すごく見やすく、活用しやすいのではないかというふうに思いました。

大日本図書のほうですが、こちらのほうは、実験や観察のところで、目的、着目点、必要なものと、注意事項ということがはっきり書かれていて、実験をする上で気をつけなくてはいけないことをちゃんと周知していると思いました。こちらの大日本図書のほうのデジタル教材は資料だけで、単元末の振り返り問題がないというところはちょっと残念に思いました。

学校図書のほうですが、こちらもデジタル教材のほうが、この会社さんはまだちゃんと完成をしていないというところで、全部ができていないというところがちょっと残念だったなというふうに思っています。ただ、写真はすごくきれいだったので、最終的にできたものを見られたらよかったなというふうに思いました。

教育出版のほうは、探究の進め方が一目で分かるように、折り込みが、教科書を開いたところの横に出るようになっていて、本文を見ながらその流れが分かるようになっているというところが工夫されているところだなというふうに思いました。本文の重要部分のところの文字がオレンジ色であったと思います。これは、赤シートで隠せるようにしているのかなというふうに思いました。

啓林館のほうですが、「探Ｑシート」が巻末のほうについていたと思うんですけど、紙でもデジタルでも同じものがあったので、どちらでも活用しやすいようにしているという

ところはよかったかなというふうに思います。

以上です。

○委員長　○○委員、お願いします。

○委員　理科は、自然や身の回りのものや現象について探究することを目的として、探究の流れとかはもちろん、紙面とか、写真、イラストの使い方なんかが大事になってくるように感じました。紙面だけで言うと、特に啓林館さんは、イラストの的確さとか、その見やすさがすごくよかったと思います。教育出版さんは、こちらはマットで、写真が多いけど、照明が反射しにくい感じがしました。逆に、学校図書さんと大日本図書さんは、紙面がつるつるで、文章だけの紙面でもつるつるしていて、ちかちかして、ちょっと見にくかったことが残念でした。

東京書籍さんの、何でこうなっているのかなという問いから、２年生、３年生へと発展するということもよかったです。探究の流れ、使い方は分かりやすかったです。デジタル教材は、教科書のページ数と連動していることは、振り返りにも使いやすくて、いいと思いました。

学校図書さんは、こちらは、探究のほうで、気づきから課題、仮説、計画の流れとかが分かりやすくて、よかったです。こちらは、デジタル教材は「未来教科書」で、３年分をウェブページにして再構成しているということで、日本語の振り仮名つきのほか、６か国語ということで、新しいとは思ったのですけれども、副教材として使いやすいかは、ちょっとまだ何とも分からないなというところでした。

教育出版さんは、紙面がほかよりちょっとだけカラフルで、フォントを変えたりということが、実はほかにはそんなになくて、見やすさが工夫されているなと思いました。

以上です。

○委員長　○○委員、お願いします。

○委員　東京書籍さんは、課題解決の手順が分かりやすい。単元で探究したい内容がはっきりしていて、分かりやすかったです。２年生の温帯低気圧の学習のところでは、ペーパークラフトを作って、３Ｄとして学習できるところが面白かったです。あと、デジタル教材では、生物の体を３６０度くるくると回して見ることができて、それも面白かったです。実験の手順動画はすごくちゃんとしていて、分かりやすいです。

大日本図書さんは、シンプルで、分かりやすい。デジタル教材も、用語の使い方を動画で丁寧に説明してくれていました。

学校図書さんは、考えのプロセスが明確で、気づきと振り返りを、課題、仮説、検証、計画の中で、常に行ったり来たりするということを目的としていました。２次元コードは、教科書そのままでしたが、教科書アドバイザーの「理科マス！」というところで、質問に答えてくれるコンテンツがありまして、教科書に載っていないような内容とかも、参考になるページとかを教えてくれたりとかして、とてもよかったです。

教育出版さんは、実験ページに図がたくさんあって、色がきれいで、分かりやすかったです。デジタルコンテンツは、「要点チェック」で覚えている分と覚えていない分の振り分けができて、後から繰り返し学習することができて、よかったです。

啓林館さんは、単元の内容に沿った身近な仕事とかについて掲載されていて、将来の仕事にどういうふうに結びついているかみたいなことが載っていて、よかったです。デジタル教材のほうは、解答をするときの文字が大き過ぎて、スクロールしないと入らなく、ちょっと使いづらかったです。問題の答えがすぐ出てしまって、自分で考えるということがちょっと短い時間で、使いづらいと感じました。

以上です。

○委員長　ありがとうございます。

○○委員、お願いします。

○委員　まず、誰かがおっしゃっていましたが、啓林館の表紙はすごくきれいですね。これはちょっと度肝を抜かれました。そういう意味では、東京書籍は、表紙に意味もなく女性が使われていて、これはちょっと気になりました。あと、学校図書も、裏の見返しに意味もなく女性が使われていて、これは何なんですかという感じがちょっとしました。

あと、各発行者は結構、身近なものから一般的なものに行くというふうにして、興味を引こうとやっているのですが、東京書籍は割と失敗している感じがして、なぜかというと、身近なものの例が身近過ぎる。今の中学生は、身近なものの範囲は、多分、宇宙ぐらいは身近なもの、テレビで見られるようなものは全部身近なものという感じに思うと僕は思うので、台所にある塩を使ってとか、そこから始める必要はあまりないような気がします。

そういう意味でも、理科に対して興味をもらうという点では、写真がいいというところがすごくポイントだと思うんですけど、そうすると、啓林館の写真はすごいです。この写真のすごさに関しては、多分僕は３０分ぐらいしゃべれますが、今ちょっとだけしゃべると、例えば、ペンギンの写真。ペンギンの写真は、普通に動物園で撮ってくればいいと思うんだけど、水中に潜って、上は青で、３匹が空を飛んでいるような写真で、しかも晴れ

ていて、雲があって、波がなくてという、１年に１回ぐらいしか撮れないような写真が載っています。出産直後の猫とか、チリメンモンスターとか、骨格標本写真の写真とか、コンクリートを用いた岩石破壊のモデル写真、ザクⅡの写真とか、そういう、ものすごく手間をかけて写真を集めて作っているという感じです。

例えば、教育出版が水中の写真、海へのダイビングの写真、座間味島のキンメモドキの群れとか、クマノミの群れとかの写真を撮っているのですが、ちょっと悲しくなるぐらいに写真が下手なんですよね。あと、カーリングの写真とかが教育出版では載っているのですが、これはストップモーションか何かにしてほしいなとちょっと思うぐらいに下手くそという感じで、とにかく、啓林館は写真にものすごく命をかけている感じがします。

あともう１つだけ言いますが、３０分しゃべれてしまうので、あと１つだけにしておきますが、どら焼きの写真が出るのですけど、どら焼きが、紅葉が背景にぼけていて、そして、きれいな器の上に載っかっているどら焼きとかいうことで、この必要はないだろうぐらいに１枚１枚に凝っていて、ものすごく興味を持てるので、僕は啓林館、これが絶対にお薦めと思いました。

以上です。

○委員長　○○委員、いかがでしょうか。

○委員　探究ということを正面に据えて、子どもたちにも、探究をしてみようとか、流れを確認しようとかというふうに呼びかけているのは、東京書籍と、教育出版と、それから、啓林館、この３つだったように思います。それについては、疑問を持とうとか、課題を持って、仮説を立ててみよう、実験、観察、その計画をしようとかと、順序立てて、こういうふうな形で探究ということを進めていくのだよということを打ち出して、はっきり分かりやすく書いていたのは教育出版だなというふうに考えました。

あと、どなたかがおっしゃっていましたが、大日本図書だけが横幅が狭いというか、普通の判なんですよね。Ｂ５判だか何判だったか、普通の判で、その分、写真がちょっと小さかったり、ごちゃごちゃした感じがあったということが印象に残りました。写真のことは今ありましたが、写真はどれを見てもきれいだなというふうに私は思っており、とても分かりやすく、親しみやすい写真を使っていたのは東京書籍と教育出版、あと、啓林館、こんなところだったなというふうに思いました。

以上です。

○委員長　○○委員、お願いします。

○委員　理科は技能教科というようなことのご発言がありましたけど、そのとおりで、１年生は、入学したらグラウンドを回って植物、生き物を感じる、それを観察する、考察する、それを分析してというようなところから興味、関心を持たせて、理科の学習が始まっていくのですよね。植物ですね。それと、実験での事故で救急車が来るというようなことがあって、先生方も実験には非常に細かい神経を使われるのですが、そのためには、１人では無理だから、先生のクラスだから、一緒に見ていようとか、他教科の先生が見て実験に参加、あるいは生徒と一緒に見ることもあるのですけど、そういう意味では、グループ学習、実験の仮説を基に立てていく、それで、次の実験はどうなんだろうかということで興味、関心を湧かせるという。理科というものは非常に興味のある、将来の自分の進路にも役立てるというような、非常に関連性のある教科でもあるのではないかということで思っています。そして、家に帰っても、今度は、家の中での話から、どうだろうか、こうだろうか、世の中ではどうなんだろうかと関連づける教科だと。そのためにはやはり教科書がしっかりしていないといけないと思いますけども、ここに書いてありますが、東京書籍は実験が非常にウエートが高かったです。教育出版も実験には非常に丁寧さがありました。学校図書についてはやや消化不良の感がありました。写真とか、今の話がありましたが、それはあるのですが、それは、本の教科書でなくても、ほかの２次元コードなんかを使って興味、関心が湧くから、その辺の教科書を選べばいいのではないかと思って見させていただきました。

以上です。

○委員長　ありがとうございました。

私のほうからちょっと幾つかお話を申し上げますと、先ほど出ておりましたけど、高等学校以降では分野別に学習を進めていくことになりますので、やはり、義務教育においての基本的な事項、特に、興味、関心だとか、思考力というものを大事に扱ってほしいなというふうに思いました。そういう点で、委員から出ましたが、分野の構成ということは大きいのかなというふうに見たところでございます。皆様がおっしゃっているように、理科として、既習事項、あるいは、実験の面白さも、こういった手順ですよね。実験の仮説だとか、考察だとか、こういったところがぜひ生徒の主体的・対話的で深い学びということにつながっていくように進めていただけるような教科書がいいのかなと。それと、やっぱり振り返りが大事なのかなというふうに思います。最後に、写真だとか、イラスト、２次元コードの違いといったところと、各発行者の教科書を見たところでございました。

以上、理科についてはよろしゅうございますか。

それでは、いよいよ最後に来ました。英語でございます。それでは、英語につきまして順にご発言をお願いいたします。

○○副委員長、お願いいたします。

○副委員長　英語は、話す、聞く、読む、書く、この４つの言語活動を通しながらコミュニケーションを図ろうとする力を高めることが大きな狙いだと思います。今、英語の先生で困ることは、小学校で１回学んでいるので、中学に入った段階で習熟の差があって、すごく難しいのではないかという印象です。だからこそ、面白い話題とか、学びやすさということを教科書に求めなければいけないかなというふうに思います。

ざっと言います。東京書籍は、１年生から英語の歌を各学年に取り入れて、すごく聞く力、歌う力と。あと、１年生でスピーチ、２年生でディスカッション、３年生でミニディベートと、話す、聞くというところに力を入れていて、いい印象でした。

開隆堂は、８人の中学生がストーリー性のある展開で３年間学んで、職場体験とか、広島の修学旅行、ロボットカフェ、中村哲さんなど、生徒の発達の段階に応じた話題が非常に豊富で、興味深く学べるのではないかと思います。色遣いがとてもきれいでした。

三省堂は、小学校の復習の部分は幅の狭いページにして、いつでも振り返りやすくさせているところがいいかなと思いました。「Ｓｃｅｎｅ」、「Ｔａｋｅ　Ａｃｔｉｏｎ」、「Ｒｅａｄ」、「Ｓｉｄｅ　Ｓｔｏｒｙ」と、基本から応用へきちんとした流れができている教科書だと思います。

教育出版です。これは、ＬｅｓｓｏｎごとのＰａｒｔ１、Ｐａｒｔ２の終わりに「Ｔｈｉｎｋ　＆　Ｔｒｙ」というのがあって、学んだ内容を簡単な言語活動へ。やはり、話すとか、聞くという力を高められるだろうなと思いました。教材で水原一平さんのことがたしかこの教科書に入っていたと思うんですけど、これがどうなっていくのかということを、誰か知っていたら教えてください。

○委員　教育センター分室で見たのですけど、差し替えるという旨の紙が。

○副委員長　差し替えたものはどなたも見ていないですよね。

○委員　見ていないです。

○指導室長　サッカーの日本代表のサポートをするコックさんというんですかね。そっちに差し替えるということで報道されておりました。

○副委員長　分かりました。すみません。

あと、光村図書は、英語をなぜ学ぶのかということを視覚的な導入で示していて、あと、ところどころにその場でスピーキングの「Ｌｅｔ’ｓ　Ｔａｌｋ」というのがあって、やはり話すことにも力を入れていると思いました。各学年の「英語の学び方ガイド」というものがあって、これはいいなと思いました。

最後は啓林館ですけれど、「Ｌｅｔ’ｓ　Ｔａｌｋ」とか、「Ｌｅｔ’ｓ　Ｌｉｓｔｅｎ」の教材を多く取り入れて、話す力、聞く力を高めることに力を入れていると思いました。デジタルは、「Ｌｅｔ’ｓ　Ｌｉｓｔｅｎ」のスクリプトがきちんと巻末に載っていて、自分で復習ができるようになっていました。あと、「Ｌｅｔ’ｓ　Ｒｅａｄ」のほうでは、「クマのプーさん」とか、「スノーマン」とか、「チャーリー・ブラウン」の作者とか、子どもたちが興味を持つような教材があって、興味、関心を持って子どもたちが学べるのではないかという印象を持ちました。

以上です。

○委員長　ありがとうございます。

○○委員、いかがでしょうか。

○委員　英語です。

まず、三省堂です。ほかの教科書会社もそうですけれども、２次元コードが非常に充実してきていて、生の音声を聞けるというようなことがどの教科書会社も工夫をされていて、今の時代だなというふうに思っています。まず、三省堂については、「Ｓｍａｌｌ　Ｔａｌｋ」ということで、１年生の早い段階から会話ができるようなことに重点を置いているなというふうに思いました。それから、先ほどのお話で出てきましたけれども、大谷選手とかのスポーツ選手を扱っていない教科書会社はほとんどなかったのですが、三省堂は、スケートボードであるとか、カーリングであるとか、比較的ニュースポーツ的なものを扱っているのと、車椅子バスケの鳥海連志選手を取り扱っているというところは、非常に今までにない視点だなと思って、いいなというふうに思いました。

啓林館です。１年生の導入の会話の部分ですけれども、中学へ入ってきて、そこで実際に会話をするというようなところで、実際の生活に非常に合っているなというふうに思いました。それから、扱われている内容が、防災体験であるとか、職場体験であるとか、それから、お礼の手紙の書き方が、職場体験に行ったお礼の手紙であるとかということで、非常に今の学校の内容に合っていて、子どもたちもぴんとくるところがあるのかなというふうに感じました。

開隆堂です。「音読チェック」、「できたかなゴール」ですとか、できたら塗っていくというような形で、非常にワークブック的な要素で、こういうふうにやって音読をチェックしていくのかなということで、これは１つのアイデアであろうなというふうに思いました。それから、イラストと吹き出しで会話のページを構成しているところがあって、実際にこの人がこういう会話をして、こちらの人が返していくというイメージが湧きやすいかなというふうに思いました。リーディングの部分で、読ませる教材が入っているのですけれども、内容が豊富で、発展的な教材になるかなというふうに思いました。

東京書籍です。扱っている外国が、ニュージーランドであるとか、ハワイであるとか、カナダであるとか、身近な国が取り扱われていて、いいかなというふうに思います。それから、英語の歌を扱っている部分がどの学年もあるということだったのですけれども、歌を使って授業を進めていく英語の先生というのは比較的多いかなというふうに思うのですが、そういう意味では使いやすいかなというふうに思います。

教育出版です。１年生の導入で、小学校で学んできたこととの関連づけが非常によかったかなというふうに思います。ピクトグラム、ＳＤＧｓやリサイクル、２年生のユニバーサルデザインとか、身近なものを取り扱おうとしているのですけれども、内容がちょっとぴんとこないなというふうな感じがしました。それから、リーディングの部分ではいろいろな読み物を入れているのですけど、「Ｔｈｅ　Ｇｉｆｔ　ｏｆ　Ｔｅｚｕｋａ　Ｏｓａｍｕ」というようなものであるとか、その内容が豊富で、興味が湧きやすいものかなというふうに思いました。

光村図書です。巻末の「英語の学び方ガイド」は充実しているなというふうに思いました。それから、「帯教材」ということで取り扱われているのですけども、英語の先生がこの中にいらっしゃるのかはちょっと分からないですが、英語の授業の中で「帯学習」という形で、毎時間の頭の部分でやられていく授業の進め方をされている方が非常に増えてきているのかなというふうに思いますけども、その意味では、「帯教材」というものが扱われているということは非常に興味深いなというふうに思って見ました。

以上です。

○委員長　ありがとうございました。

○○委員、お願いします。

○委員　新出文法がいかに各単元で明確に示されているかということを視点に見ました。そうすると、光村図書が１番明確に文法理解をやって、そこから会話につながっていると

いうようなところで、これが英語の指導者にとっては最も教えやすいように思います。教師の教えやすさは、イコール生徒の分かりやすさだと思いますので、これが１番教えやすいと思います。次点は東京書籍です。東京書籍は読み物教材の内容がとても充実しているように思いますので、こちらも教えやすいように思います。

以上です。

○委員長　○○副委員長、お願いします。

○副委員長　東京書籍です。イラストや写真が多用されて、見やすく、場面設定がしやすい印象がありました。２次元コードにおいては、言いたいことを言える本文用例検索機能みたいなものがあったりして、興味のある子にはなかなか面白いなと思いましたし、また、学習内容を基にしたゲームの活用があるというところでは、逆に、補充的なものにおいてもゲーム感覚でできるのがよいなというふうに思いました。

開隆堂です。鮮明なイラスト、写真などが多くて、非常に興味、関心を高めるのではないかというふうな印象です。２次元コードについては、単語アプリです。これがうまく使えるといいなと思ったことと、それから、「Ｌｉｓｔｅｎ」というところでは、再生速度が選択できるというのは、私なんかはすごくよかったなと思っています。

それから、三省堂ですけれども、小学校からの円滑な接続というところについて配慮されている部分については、逆に、学び直しという視点からも、よいような気がしました。２次元コードにおいても、マイク機能を使って発音チェックができるという部分など、コンテンツが充実しているようなイメージです。

教育出版です。多様なイラスト、写真は本文理解の一助となっているかなというふうに感じました。アイコンで活動内容を明示してあるような２次元コード、身につけるべき技能が分かりやすく示されている教科書だなというふうに思いました。こちらも録音機能があるので、モデル音声を聞いた後に自分の音声を録音して確認するというような。模範ビデオと自分のビデオを見て比較するなんということが、こういう形ででもできるのだなという感想を持ちました。

光村図書です。こちらも、小学校での既習語句、表現に印がついているところがいいなと思いました。写真、地図などが添えてあり、一助になるのではないかというところです。２次元コードについては、スピーキングテストとか、質問というものがランダムに提示されるコンテンツがあるので、今風で、いいなというイメージです。

啓林館です。イラスト、写真が多く、表や図などもあって、見やすいなというイメージ

ですが、単語量や文章量が多い分、ちょっと文字が小さくて、内容量が多く感じました。説明が丁寧だという捉え方もあるかというふうに思います。２次元コードにおいては、新出語句、本文の音声、こちらが家庭学習に役立つのではないかというふうに思いました。

以上です。

○委員長　ありがとうございます。

○○委員、お願いします。

○委員　東京書籍に関しては、多様な文化を学ぶということで、いろいろな文化、題材が入っているというところはよかったなということと、やはり、デジタルコンテンツが充実しているなという印象を受けました。

開隆堂に関しては、特に文法資料のところで、やっぱり、読む、聞く、話す、書くという流れがあって、指導をしやすいだろうというふうに思います。

三省堂に関しては、やはり、先ほどもちょっとありましたけれども、小学校からの学びの接続の部分で随分有効的だなというふうに思いました。また、時事問題とか、バラエティーに富んだ内容を扱っているので、生徒が興味を持ちやすいだろうなというふうに思います。

それから、教育出版にいついても、新出文法、会話や文章からの読み取り、それから、読み取った内容を要約するとか、表にまとめるとか、そういう部分が充実しているなというふうに思いました。

光村図書に関しては、やはり、先ほども出ていますけれども、左がインプット、右側がアウトプットというような流れがあって、そういう本文、活動でインプットからアウトプットに流れるという、その動きが特徴的だなと思いました。

啓林館に関しては、実生活と強く結びついている課題がたくさんあるなという印象を受けました。

以上です。

○委員長　○○委員、お願いします。

○委員　英語は、聞いたりとか、しゃべったりということが大事なのかなと思うと、２次元コードの位置というのは大事なのかなというふうに思いながら見ていました。章の初めにしか２次元コードがないものもあったりとか、全ページにわたって大体同じ位置にずっと２次元コードが記載されているというのは、子どもたちにとってはどっちがいいのかなという。突然出てきたから見てみようと思えるのか、ずっとあるから見たいというふうに

思えるのかというところは、どっちなんだろうかというふうに思ったりしていました。東京書籍は、大体右上のところにずっとあって、すぐに見られるのだろうなというところがあります。それから、開隆堂はずっとありました。それから、開隆堂のところは、教科書の右側のところに、今、その章のステップどこみたいなことが、ワニとかコアラみたいなものがだんだん上がっていくみたいなものがあると、こんなふうにステップを踏んでいっているのだなということが、そこに着目するかどうかは別にして、ゴールに向けて進んでいっているのだなということが分かるのかなというふうに思ったりしていました。それから、三省堂については、ユニットごとのところに２次元コードがあった感じでした。教育出版については大体右上のところにあって、それから、どんなことを学ぶのか、リスニングなのかとかというマークが大きく示されていたのが、これは今、リスニングなんだなとか、今はリーディングなんだなということが分かりやすかったなというふうに思いました。光村図書もそんな感じであったかと思います。２次元コードはずっとありました。それから、啓林館については、ユニットのところにあって、啓林館は字がすごくいっぱい書いてあるなというような印象がありました。

あと、教科書のサイズが大きかったり、小さかったりして、それはどっちがいいのだろうなと。英語はどんと大きいと、英語っぽいとか、外国語っぽいというような感じもするのですけど、これだけ大きいのは、ちょっと英語はやばいみたいな感じになるのかなというところもあり、大きいほうがいいのか、小さいほうがいいのかというのは、どっちがいいのだろうなと思いながら見ました。

以上です。

○委員長　○○委員、お願いします。

○委員　どの英語の教科書の会社もいろんな内容を扱っていて、本当にそれが面白いなというふうに感じていました。特に、３年生になってくると、ＳＤＧｓとの関わりであったり、兼ね合いというか、そういうつながりがすごく多くて、すごいなというふうに感じた中で、東京書籍の「Ｅｔｈｉｃａｌ　Ｆａｓｈｉｏｎ」について書いてあるものとかも、社会科ともつながってきたりはするのですけど、それによっていろいろ考えて、英語で文章を作っていくというところはとても面白いなというふうに感じました。あと、三省堂の章ごとのプロジェクトという文章を考えたりとか、自分で深めるところの活動というものもすごく面白そうだなと思ったのですけど、光村図書にもそういうものがあったのですが、より自分の身近なものというか、身近に感じられるようなものは、三省堂が面白そうだな

というふうに感じました。全ての会社で２次元コードのコンテンツはすごくやっぱり充実していて、特に、生成ＡＩができていくというような形の中で、英語の教員がどういう役割を持たなければいけないかということは、この間、英語の教員と話したのですけど、なかなか難しいというか、そこで、やっぱり、人と人とのコミュニケーションが大事だということもおっしゃっていましたので、それがかなうような教科書が採択されるということが１番いいと思いますが、どの教科書もそれが工夫されているのだなというふうに感じました。

以上です。

○委員長　○○委員、お願いします。

○委員　東京書籍からです。各Ｕｎｉｔで、Ｕｎｉｔのゴールに向かって系統性のある学習の流れが構築できるようになっている。また、「ＣＡＮ－ＤＯリスト」が単元ごとにあって、振り返りができると。

開隆堂ですけれども、「Ｓｃｅｎｅｓ」、「Ｐａｒｔ」、「Ａｃｔｉｏｎ」、「まとめ」の流れにより、系統性を持って学習を進められる。各プログラムにリテリングのページがあるということが特有でした。

あと、三省堂は、「ｇｏａｌ　ａｃｔｉｖｉｔｙ」など、中学校で学んだことを生かす場面が設定されている。小学校で学んできたことを生かせるように、中学校での学びへとスムーズに接続できるための工夫がされている。

教育出版は、「Ｓｃｅｎｅ」、「Ｋｅｙ　ｓｅｎｔｅｎｃｅ」、「Ｌｉｓｔｅｎｉｎｇ」という流れで配列されていて、系統性を持って授業を構成することができる。各「Ｌｅｓｓｏｎ」の目標は明確に示されていて、「Ｃａｎ－Ｄｏ自己チェックリスト」に明示されている。第３学年の段階的な学習到達目標がありました。

光村図書は、小学校での学習を踏まえて配列されている。ストーリー仕立てによる構成で、目的、場面、状況の３要素に触れて、「使える英語」を意識した内容となっている。

啓林館は、指導の一貫性としての流れが適切に図られている。帯教材として使用できるページがあるということを特徴として考えました。

以上です。

○委員長　ありがとうございました。

○○委員、お願いします。

○委員　東京書籍です。１年生の教科書は、２年生、３年生のものと違って、本文の字を

ちょっと大きくしているのかなというふうに思いました。小学校からの授業なので、見やすくしているということで、触れやすいのかなというふうに思いました。あと、デジタルマップというものが教材の中に入っていまして、それは、日本地図とか、世界地図が入っていまして、その中にその地域の紹介文が英文で書いてありました。日本語訳もあって、音声を聞くこともできて、子どもたちが興味を持てるようにしているのかなというふうに思いました。

開隆堂です。本文のほうのページの右側に音読チェックが５つあったので、５回音読してねということを先生たちが伝えたいのかなというふうに思いました。そのほかに、日本の文化を英語で紹介するなど、文化とか学校行事、身近なことを伝えられるようになってもらうための工夫がしてあったと思います。

三省堂です。文法のまとめは、色分けとか、一覧で、すごく見やすかったと思います。

あと、教育出版のほうですが、教科書の上のほうに「聞く」、「読む」、「話す」、「発表する」、「書く」ということがついていて、分かりやすかったと思います。文法のほうも、日本語と英語の語順などが見開きになっていて、色分けをしてあったので、分かりやすかったです。

光村図書のほうですが、先ほどもありましたが、２次元コードは統一されている場所で、教科書の右上にあったので、分かりやすかったと思います。ただ、本文の音声のみと映像のみということだけだったので、もうちょっと文法のこととかに触れていただけるとよかったかなと思いました。

啓林館です。理解度チェックの項目が４段階になっていたと思います。あと、ビートルズの「ハロー・グッドバイ」の歌が入っていたので、子どもたちも楽しんでもらえるかなというふうに思いました。

以上です。

○委員長　○○委員、お願いします。

○委員　英語は、１年生なんかは特に、学んでいくのにどれだけ身近に興味を持って楽しめるかということがポイントであったらいいなと思って見ていました。

東京書籍さんは、学習の流れであったり、楽しく学べる工夫、振り返りが多かった。「語順カード」など、楽しく学べる工夫が多くて、特にこれはスモールステップを感じました。ちょっと苦手な子も少しずつ学べるのではないかと。

同じように、開隆堂さんも、こちらは写真が多めでしたり、巻末に辞書の使い方なんか

があったりして、特に、デジタルの単語アプリとか英語すごろくなんかはすごく楽しそうでした。こちらも、スモールステップとして、１年生の初めはいいかなと思いました。

三省堂さんのスタートは、ちょっと英語になじみがある子には楽しそうだが、若干導入のハードルが高めではないかと感じました。あと、「ｇｏａｌ　ａｃｔｉｖｉｔｙ」ですかね。「聞く」、「書く」、「アウトプット」、「発表」の流れとかがよかったと思います。ページごとの振り返りもあって、こちらもよかったと思います。

教育出版さんと啓林館さんは、ページの構成が割とテンプレートになっていて、分かりやすいというか、進め方の見通しが毎時間立つので、これも、問題というか、その日の学習に集中できるのではないかと思いました。

光村図書さんは、この中ではすごく変わっていて、とにかく没入感があるテキストであったなという印象です。アルファベットを書く目の前の写真の子ですかね。彼のこと、彼女のことを知ろう、何と言っているのかな、英語でつながろうという、とにかく英語のプールにドプンと入れられるような感覚があって、それが面白くて、３年生までぐっと読んでしまったのですが。教え方とか、学ぶほうとしては、相性があるかもしれないのかなと思いました。「英語の学び方ガイド」が巻末にあるのが面白いなと思って、いろいろ、プールで泳いだ後に、こういうことだったのかという振り返りができるのかなと思いました。

以上です。

○委員長　○○委員、お願いします。

○委員　東京書籍さんは、イラストや写真が多く、見やすかったです。日本国カルチャーを伝えたりとか、あとは、英語の歌、テイラー・スウィフトさんとかの歌、子どもたちに身近なものからほぼ学べることはとてもいいと思います。でも、音源がないので、先生がかけてくれるのかなと思って、ちょっと残念でした。デジタルコンテンツは、「Ｄｑｕｉｚ」をゲーム感覚で楽しく学習ができることがとてもよかったです。

開隆堂さんは、「Ｃｏｆｆｅｅ　Ｂｒｅａｋ」の中のオノマトペの違いとか、日本語と英語の違いとかというところは興味深く学べるかと思います。デジタル教材のほうでリスニングの問題があり、スピードの調整ができることがとてもよかったと思いました。

三省堂さんは、課題の中で、○○の気分のときに聴く、みんなに聴いてほしい曲とか、初めて来日する友達に同行プランの提案だとかいうことで、自分が興味を持っていることを人に伝えるということを目的とするような学習ができて、興味深くできるかと思いました。

教育出版さんのほうは、物語文や会話文が多くて、読解力がつきやすいと思います。あと、自分の言葉を録音する機能がついていて、確認がしやすいと思いました。

光村図書さんは、「世界の中学生」というところで、ほかの国の中学生との共通点とか、違うところを見つけるという興味深い単元がありました。

啓林館さんは、３Ｄアートとか、世界で働くとかいう、将来に自分がつながるような興味深い学習内容があり、とても楽しそうでした。

以上です。

○委員長　○○委員、お願いします。

○委員　やっぱり印象に残ったのは光村図書さんで、最後の３年生で到達できる点ですごく高度のものが読める。セヴァン・カリス＝スズキさんの文章とか、このくらいの文がすぐ読めるような人ができたら、それはもう教育の成功という感じで、いいのではないでしょうかという感じがします。あと、僕は知らなかったので興味深かったのは、光村図書の３年の読み物にあった「エレクションズ・イン・ノルウェー」というものがあって、ノルウェー・キャンペーン・スタンズというものに関するもので、これは中野区の教育委員の方とかにも見ていただきたいぐらいの文章です。黒人のバスの話とかも。黒人のバスで、バスに乗る権利が白人と黒人で分けられていたのが、獲得していった話とか、そういう、このくらいの文章を読めると、日本語で書かれたものがないレベルの文章が英語で読めているということになるので、とてもいいのではないかと思って、英語の時間数でここまで到達できるとしたら、英語の先生の力量も相当必要だと思うんですが、とてもいいなと思いました。

その次ぐらいにいいなと思ったものは啓林館で、啓林館もやっぱり、３年生の到達点として読める文章が、「オズの魔法使い」とか、環境問題の話とか、大谷の話は要らないと思うんですが、そんな感じでいいものを読めるので、ここを目指して、どっちの会社も割と古典的な構成といいますか、語学の古典的な、身の回りの会話、私の名前は何ですとか、何歳ですとか、お父さんの仕事は何ですとか、そんな話をして、広げていって、歌を歌ってという、その構成はほとんど同じなので、差が出るとすれば、最後にどこまで到達できるかではないかと思うので、この２者は大変いいなと思いました。

あと、光村図書ですごく気になったというか、ものすごく、こんなことまで教えてくれるとすごくいいなと思ったのは、「シンガポールに行きましょう」という話で、会話をしているのですけど、最後に、エキストラの課題として、シンガポールの英語にはどんな特

徴があるかを調べてみましょうとかいうことで、これはそうなんですよ。シンガポールでこういう会話にはならないはずで、ものすごく特徴がある英語をしゃべられていますので、世界の方言みたいなものまで、ちょっとだけでも聞いたことがある人を育てておくということはいいことなのではないかと思いました。

そういう意味で、世界に関する認識がおかしかったのは開隆堂で、「世界のお菓子」とかいうコラムがあるのですが、レイアウトが悪い、写真が悪いということはあるのですが、世界のお菓子として例に挙げてあるものがバクラヴァとかガレトロワとかで、これはそもそもトルコ語と英語だし、何を言いたいのかがよく分からないようなものになっているし、あと、開隆堂の教科書は、例文の主語と動詞に何か囲みがつけてあって、これは、主語を青で、動詞を灰色で表しているのかなと思ってずっと読んでいたら、「Ｔｈｅｒｅ ｉｓ ａ ｓｔａｄｉｕｍ」というところで、「ｉｓ」と目的語にそれがついていて、どういう意味だったのかが分からなくなってしまったという感じで、ないほうがいいような。僕はよく分かっているのですけど、分かっている人が見て分からないような記号はつけないほうがいいのではないかとちょっと思いました。

あと、三省堂と教育出版です。これは個人にもよると思うんですが、素材があまり魅力的ではなくて、防災訓練は僕はあまり読みたいと思わないし、落語もあまり読みたいと思わないし、職業体験とか、日本の観光名所について紹介されていることを理解するとか、そういう何かちょっとおかしな素材が多いし、そんなことをやっているから、通訳の水原一平の話を教育出版は入れてしまったのではないかという感じがとてもして、仕事にすごく偏った、職業訓練、職業体験としての英語みたいなものに偏った感じが大変したものが教育出版と三省堂でした。

以上です。

○委員長　○○委員、お願いします。

○委員　小学校でも英語活動というんですかね、始まって、中学校との違いというものをどういうふうに説明しているのかと思ったら、東京書籍は、小学校では聞いたり話したりということが中心になっていたけど、中学校では英語というものを読んだり書いたりできるようにするんですよということで、中学校での英語の力点というか、そういうものについて説明しているところが、そうなのかというふうに思って、読んだり書いたりのどんなところまでを読むのだろうかということで見てみました。そういう中では、例えば、今出た東京書籍では、ガンジーの功績のこととか、絵本の作家ですかね、エリック・カールさ

んという人の話とかが出てきて、そういう話を読めると。それから、開隆堂では、中村哲さんの話とか、アポロ１３号のこととかが取り上げられているし、三省堂では、広島の原爆の子の像の千羽鶴の佐々木禎子さんのことについて触れていたり、教育出版では、手塚治虫や広島の物語であったりということで、いろいろなものがいっぱいあるので、その中で、私の希望としては、教科書は１社しか選べないわけで、ほかの教科書ではこんな話も載っているよということを時間があれば紹介して、授業を豊かにしていってもらえるといいかなというふうに思いました。啓林館も、先ほどあったように、「クマのプーさん」とか「チャーリー・ブラウン」とか「オズの魔法使い」とか、なじみのあるというか、有名なものがあるのですが、「クマのプーさん」は、版権の関係ですかね。絵があの絵ではないんですよね。それがとても気になったということが一つありました。

以上です。

○委員長　○○委員、お願いします。

○委員　英語科もたくさん発行者があるので、見させていただきました。全部見ましたけど、行間、その他も大体似たり寄ったりの行間で、文字の字体も大体同じで、見やすかったです。ただ、内容ということになると、ちょっと難しいのですけども、皆さんがおっしゃるような感じで私も見させていただきました。今は小学校からも英語科を外国語ということで勉強しているので、それとの関連性、小学校での差があって入ってくる、その差をどういうふうに教科書で埋めて、中学校での英語科を展開していくか、その３年間で英語教育というものの興味、関心を定着させるかということの一助にするための教科書ですから、○○委員も言われたように、非常に難しく、いろんなところがあるので、そこには教科担任の独自性ということで、副教材の活用、あるいは、今で言う２次元コードの活用、話す、聞く、繰り返すということがベースになると思いますので、そういうところからきちんとしたテキストを選んでいけばいいかなということを感じて、述べさせていただきました。

以上です。

○委員長　皆さん、ありがとうございました。

英語については、この会議の冒頭で、文科省からの通知を持っていただいているかと思いますけども、紙の教科書が採択された場合、その発行者のデジタル教科書を併せて給付するといったようなことが出ておりますが、デジタルにだんだん移行されていくのでしょうけれども、やはり、紙の教科書としての基本技能といいましょうか、そういったもので

バランスよく学んでいく必要が当然あるのかなと。よく、スピーキングが課題だというふうに、我が国の英語教育はそう評して言われますけど、そういった意味では、しっかりとした表現力、どんな言葉を発信するかという意味では、ちゃんとした英語の理論がしっかり備わっていることは基本的には重要かなというふうな思いで見させていただきました。どの会社も英語についてはよく工夫されているといいますか、小学校から英語が教科化されておりますので、そういった意味では、そういう工夫の跡は見られるなというふうに思いました。

以上でございまして、英語までたどり着きましたので、本調査委員会は議論が尽きたところかなと思っておりますが、この辺りで事務局のほうへお返ししたいと思います。よろしくお願いいたします。

○事務局　皆様、ありがとうございました。

それでは、最後に、指導室長よりご挨拶をお願いさせていただきます。

○指導室長　皆様、長時間にわたりましての活発な協議を本当にありがとうございました。様々な視点から出るご意見につきましては、発見や気づきが多く、大変有意義な時間を過ごさせていただきました。

この後、教科用図書選定調査報告をはじめとする各種意見を教育委員会に報告させていただきます。そして、教育委員会において教科書について協議及び採択をいたします。事務局といたしましては、中野区の子どもたちのために公正な教科書採択を進めてまいりたいと思っております。

皆様、長い時間、本当にご協力をありがとうございました。以上でございます。

○事務局　指導室長、ありがとうございました。

皆様、本当にありがとうございます。以上で第４回中野区立中学校教科用図書選定調査委員会を終了させていただきます。

最後になりますが、これまでお渡ししていた資料と、すみません、ちょっとご案内が漏れていて申し訳なかったのですが、学習指導要領、黄色い冊子のものも併せてお戻しいただければと思います。

では、お忘れ物等にお気をつけてお帰りいただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

午後４時１５分閉会